

萬國地誌畧

菅野虎太譯述



大日本教育會館			
室	第		
六冊	一八二號	四架	三二函

特31
555
共
六
本

022231-001-3

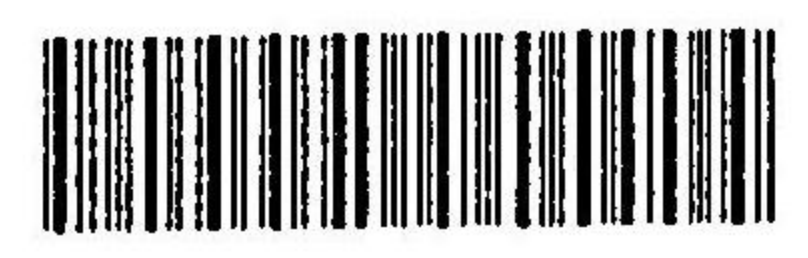
特31-555

万国地誌略

グリウリンヘルド/著
菅野 虎太/訳

M7

ADA-0693



一冊

菅野虎太譯述

萬國地誌畧各卷

明治七年十月

養賢堂藏版

特31
555

萬國地誌畧序

古昔地學之未開。人唯生且死於方隅之地。以謂自是而外。無復國土。迨智識漸開。始知舟楫之利。葡莖牙西班牙相繼與印度通商。而科倫布。檢出亞米利加洲於是乎。地球之全躰。局面始明。而五洲之稱亦定矣。然自彼國至此國。航大

菅野虎太譯述

萬國地誌畧各卷

明治七年十月

養賢堂藏版

特31
555

萬國地誌畧序

古昔地學之未開。人唯生且死於方隅之地。以謂自是而外。無復國土。迨智識漸開。始知舟楫之利。葡莖牙西班牙相繼與印度通商。而科倫布。檢出亞米利加洲於是乎。地球之全躰。局面始明。而五洲之稱亦定矣。然自彼國至此國。航大

海。凌狂濤。汪洋一万里。注來勃經數月。人皆驚曰。何地球之大也。自是以來。智逐年進。窮理之學日弄。電氣通音信。汽力行舟車。五洲之民。通交注來。見大棄如坦途。天涯如比隣。人皆驚曰。何地球之小也。均是地球也。大於古而小於今者。蓋此始有大小之異也。在見者之智識如何。

耳。抑吾有所感於此。古之聖賢君子。不通地體圓轉之理。忘其所運晝夜四季之故。而今之愚夫愚婦。皆能清之。開化日新之效。於是乎一可見也。此書雖一小冊子。合是未出閭里者。一覽了五洲之大勢。讀者將曰。吾讀此書。知地球之可以大且小。則通古今變遷之故。而進用

他日新之域。亦不為淺基也。是為
序。

明治七年 第十二月

河野通之識

清原夫人書



凡例

一 此書ハ獨逸國「グリタリンヘルド」氏ノ著述セル新
版ノ地理書ニ據リ譯述算輯スルトコロナリ
然レトモ我朝ノ地理人員物産及ヒ各條下ニ
附スル圖等ノ如キニ至テハ他書ヨリ拔萃シ
シテ記載スル所ノ者少ナカラス
一 本篇ニ掲舉スル地名等ハ獨逸原語ノ正音ニ
適セサルモノ少ナカラス是英語佛語ノ音ニ
據テ記載セシモノ多キカ爲ナリ蓋シ英佛ノ
學ハ我朝ニ入り行ハル、コト日久シキニ因

リ人能ク是ヲ識ルト雖トモ獨逸ノ學ニ至テ
 ハ日太タ淺キカ故ニ其語ヲ識ル人少キヲ以
 テ英佛ノ語ニ據リ通シ易キニ從フ然レトモ
 亦地名ノ如キハ各邦ニ於テ稱スルトコロ大
 概相似ルモノナレハ敢テ大ニ異ナルコトナ
 シ

一 各國ノ地理誌ヲ見ルニ大概自國ヲ以テ第一
 ニ記載スルニ似タリ故ニ此書モ亦亞細亞洲
 ヲ始トナシ我朝ヲ以テ第一ニ記載セリ

一 本篇各國ノ條下ニ記載シタル地圖ノ經度ノ

ノ記號ハ皆我東京ヲ以テ始トナシ東西ニ算
 シタルモノナリ

一 高低ヲ稱スルニ丈ト記スルモノハ獨逸國ノ
 十尺ヲ以テ我一丈ニ當ルモノナリ然レトモ
 獨逸國ノ一尺ハ我一尺零四厘ニシテ英國ノ
 一「フ」トト同キモノナレハ一丈ト記スルモ
 ノハ我一丈有餘ト知ルヘシ

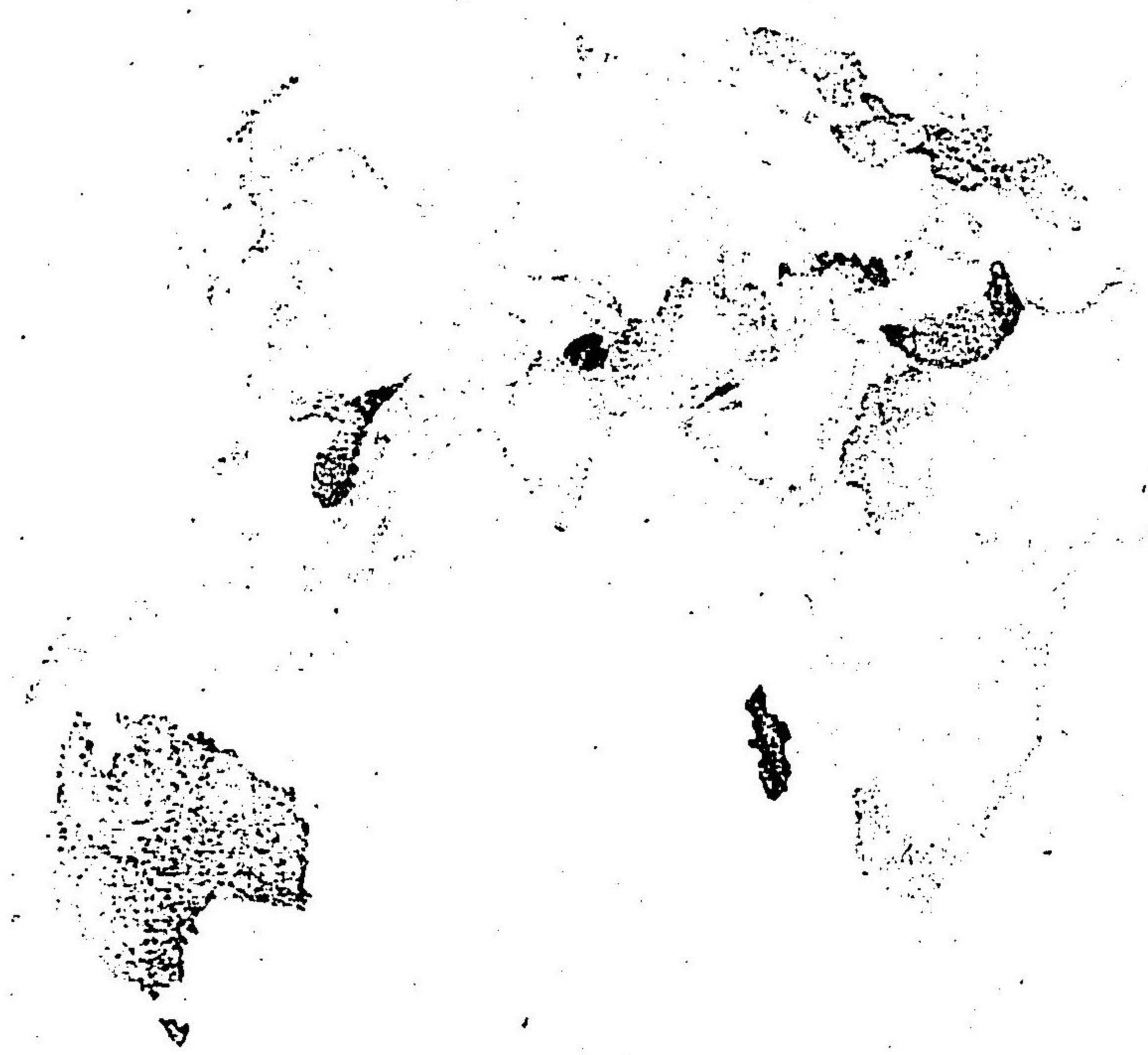
一 方里ト記スルモノハ彼ノ尺度ヲ正シク改算
 シタルモノニシテ我通尺ノ一里四方ナリ

一 此書ハ簡易ヲ旨トシテ略譯シタルモノナレ

ハ博識ナル大方ノ賢者ニ供スルニ足ラス然
レトモ初學ノ人韋編三絶ノ勞ヲ厭フコトナ
クンハ淺劣ナル一小人ニモ亦寸功アルニ似
タリト云フヘシ

紀元二千五百三十四年甲戌嚴冬

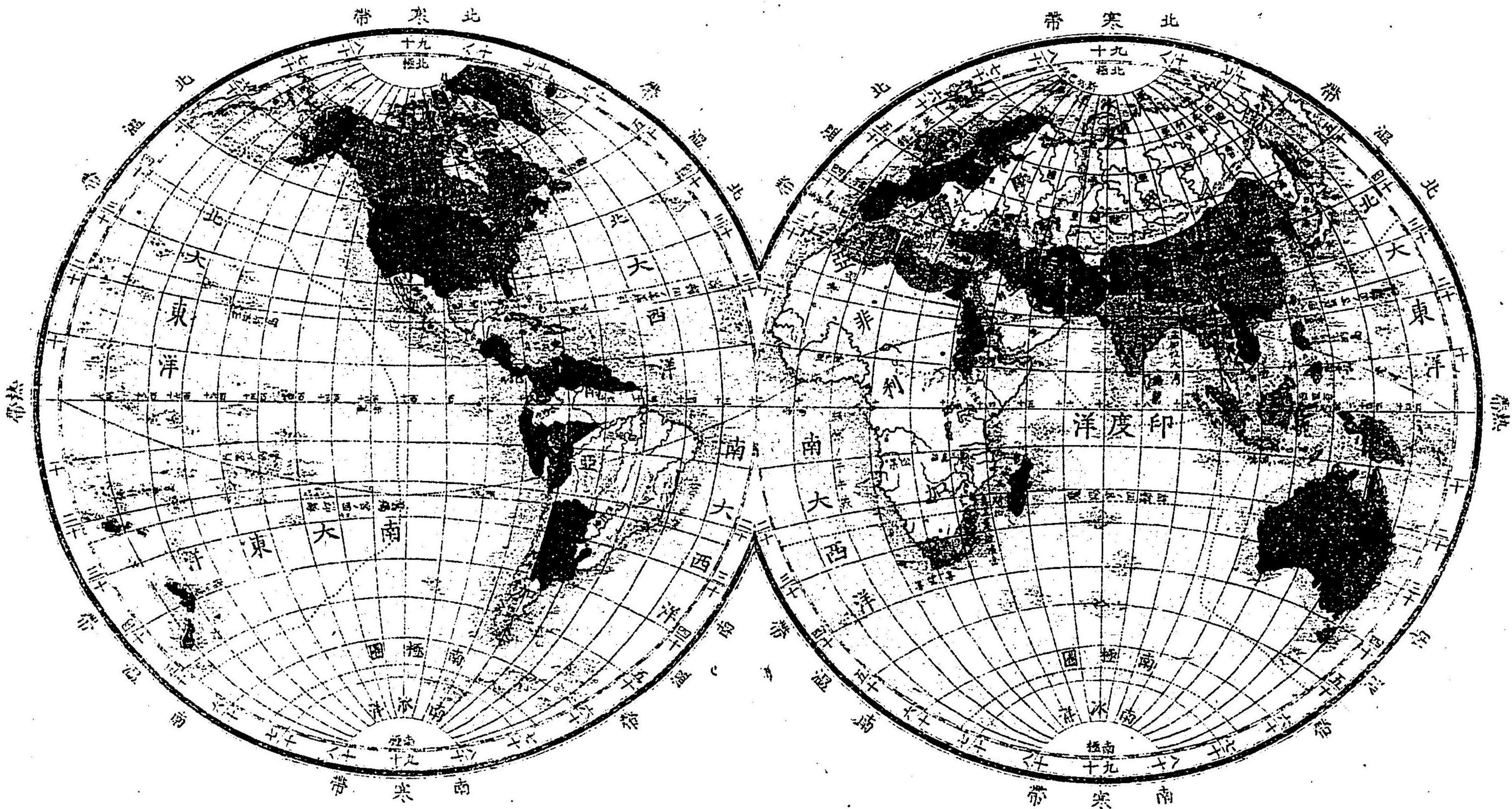
譯述者識



圖全球地

球半西

球半東



萬國地誌略卷之一

目錄

天文部

- 地球遊星之畧說
- 地球形狀之畧說
- 地球自轉之畧說
- 經度緯度之差
- 晝夜及時刻之差
- 四季變更之畧說
- 地球五帶之區分



○月盈缺之略說

○日蝕月蝕ノ畧說

地理部

○地球表面及五大洲之區別

○海水淺深固質之畧說

○海水之流動及潮汐之畧說

○地球表面之形狀地質地勢海陸及山川之別

萬國地誌略卷之一

菅野虎太 譯述

地誌略說

地誌トハ所謂總テ地球上ニ關係スル事物ノ各異ナル形狀所以ヲ詳審ニ解明スル所ノ書ニシテ事物ノ緒端頗ル多シ故ニ是ヲ三部ニ區別ス其一ハ乃チ地球ヲ一ノ遊星トナシ其大ヒサ形狀運轉度數及ヒ運轉ニ由テ起ル晝夜四季ノ差日月ノ蝕月ノ盈缺五帶ノ區分等ニシテ是ヲ天文ノ部トナシニハ乃チ地球表面ノ形勢ヨリ海

陸山川ノ位置風雨寒暑ノ別五體ノ區分及ヒ地勢地質ニ由ル風雨寒暑ノ差鳥獸草木ノ異同等ニシテ之ヲ地理ノ部トナシ三八乃チ人種言語教法政體ノ種類各國ノ境界景況產物及ヒ人民ノ風俗情態ノ差等ニシテ是ヲ邦制ノ部トナス

天文ノ部

地球遊星ノ略説

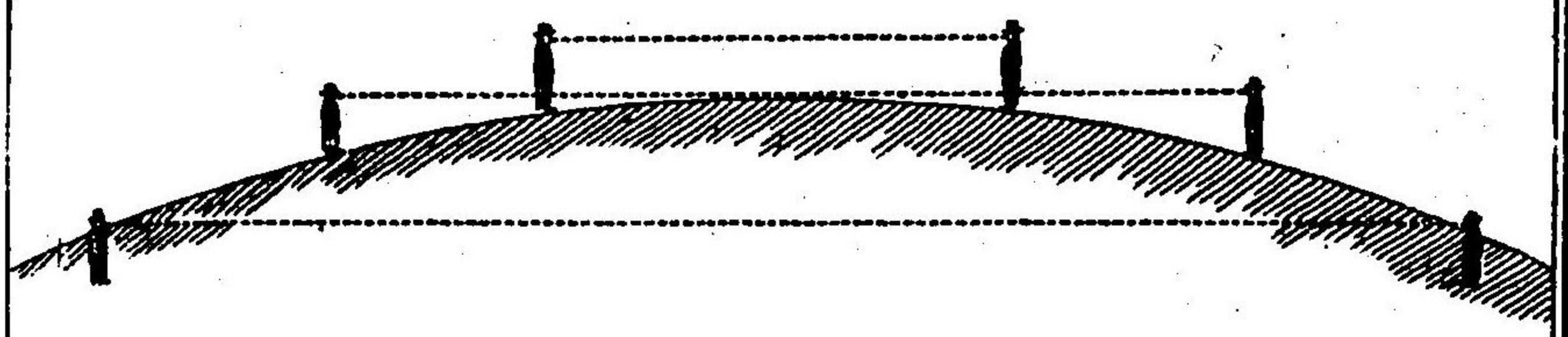
夫レ地球ハ八ノ遊星中ノ一ニシテ水星金星火星木星土星天王海王ト等ク空中ニ懸リ氣中ニ

包有シ海陸山川人獸草木其他ノ萬物皆其上ニ在ラ須臾モ離ル能ハス其巨大ナルト周圍一萬零百九十三里有餘ニシテ直徑ハ三千七百四十七里ナリ故ニ其直徑ヲ月ノ直徑ニ比較スルトキ八月ヨリ大ナルコト大概四倍トナス然レトモ太陽ノ直徑ニ比較スルトキハ太陽ヨリ小ナルコト僅ニ百十二分ノ一トナシ又木星ノ直徑ニ比較スルトキハ其小ナルコト殆ト十一分ノ一トナシ又其中真ニ軸ト名ルモノアリ其長サ大概三千二百有餘里ナルヲ知ル蓋シ地球ノ兩

極少シク平カナレハナリ又地球ノ躰積ヲ他ノ
 七遊星ニ比較スルトキハ木星ヨリ小ナルコト
 一千四百十四分ノ一トナシ土星ヨリ小ナルコ
 ト七百三十五分ノ一トナシ天王ヨリ小ナルコ
 ト八十二分ノ一トナシ海王ヨリ小ナルコト百
 五十分ノ一トナス然レトモ水星ヨリ大ナルコ
 ト十六倍六六トナシ金星ヨリ大ナルコト一倍
 零四トナシ火星ヨリ大ナルコト七倍十四トナ
 ス

地球形状ノ略説

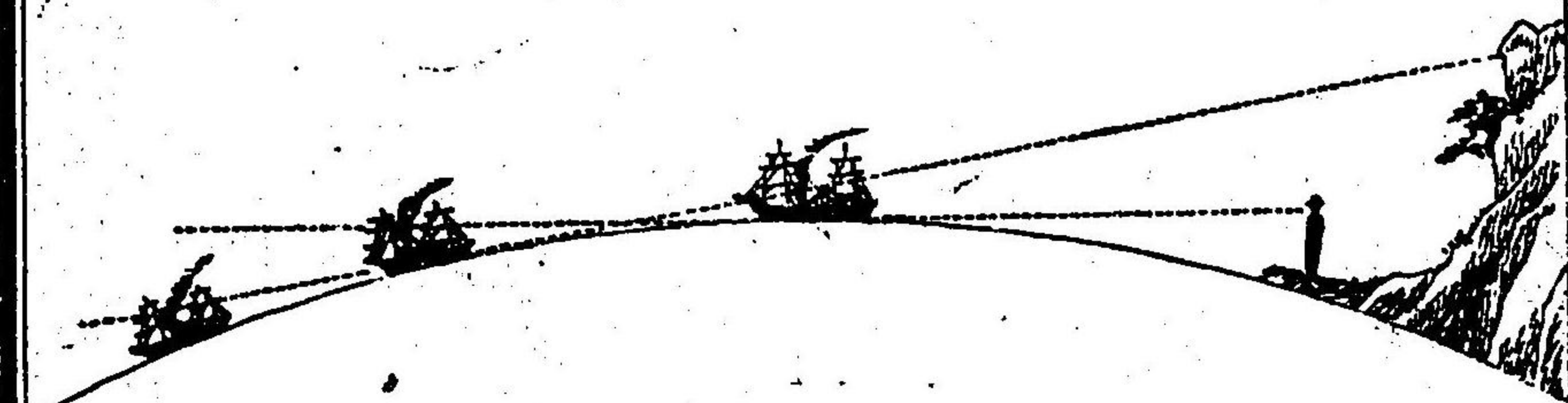
陸面穿窬之圖



唯地上ニ於テ意ナク地球
 ノ表面ヲ目視スルトキハ
 其形平夷ナル至大ノモノ
 ニシテ浩渺タル周圍ノ極
 所天際ト相連接スルカ如
 クナルカ故ニ其實圓形ニ
 シテ球ノ如クナルコトヲ
 知ラス然レトモ少シク注
 意シテ是ヲ目視スルトキ
 ハ確乎タル其實形ノ證ア

ルヲ知得ベシ今若シ二人
浩渺タル廣野ニ於テ別ニ
其間ヲ隔絶スルモノ無シ
ト雖凡僅ニ數十丁餘ノ遠
ヲ隔ルトキハ其人互ニ全
ク其形ヲ見得ル能ハス漸
ク近ツキ始メテ其頭ヲ見
ルヲ得ル次第ニ近クニ隨
テ其全體ヲ熟視スルニ至
ル又東方ニ居ル人ハ西方

水 面 穹 窿 之 圖



ニ居ル人ヨリ毎朝早ク太陽ノ顯出スルヲ見ル
又人アリテ往キ北方ニ近ツクニ隨ヒ次第ニ仰
テ北極星ノ位置ヲ高ク望ミ西方ニ遠ク去ルニ
隨ヒ次第ニ俯シテ其位置ヲ卑ク望カ如シ又海
上ノ船中ヨリ遠キヲ隔テ陸地ノ山ヲ望ムニ始
メニハ僅ニ其頂上ヲ見ルヲ得ルト雖トモ其下
ハ水面ニ隠レテ見ル能ハス漸ク近キ其半腹ヨ
リ次第ニシテ遂ニ其麓ヲ見ルニ至ル陸地ニ在
テ遠キヲ隔テ海上ヨリ船舶ノ到ルヲ望トキモ
亦然リ始メニハ必ス僅ニ其帆檣ノ上端或ハ蒸

氣ノ烟ヲ水面ニ見ル漸ク近クシテ其半ヲ見ル
更ニ近クシテ船腹ヲ見ルコトヲ得ベシ若シ地
球ノ表面ヲ平夷ナリトセハ遠ク望テ理正ニ先
ツ大ナル物ヲ見而後ニ近キニ至テ小ナル物ヲ
見ルヘシ今前ノ如ク先ニ物ノ上端ノ小ナル物
ヲ見而後ニ其下ノ大ナル物ヲ見ル是地球ノ形
圓キニ由テ水陸表面ノ穹窿ナル所以ナリ
地球ノ全躰球形ナルニ由リ其周圍ヲ一回スル
コト敢ニ意ニ介スルニ足ラス若シ今人アリ西
ニ向テ發程シ更ニ方向ヲ變スルコトナク進行

クトキハ遂ニ東ニ至リ復ヒ元ノ發程シタル所
ニ歸ルコト必然タリ何レノ所ヨリ出程スルト
モ更ニ方向ヲ變セズ進行クトキハ皆斯ノコト
シ故ニ今日本ヨリ出程シテ地球ヲ一回セント
欲スルトキハ先ツ西ニ向ヒ航海シテ歐羅巴
洲ニ達シ後尚方向ヲ變スルコトナク西ニ向テ
進ニ亞米理加洲ヲ過リ太平洋ヲ濟至ルトキハ
遂ニ一回ニ滿テ復ヒ日本ニ歸着スルヲ得ヘシ
地球ノ形狀ハ真ノ圓キニ非ス山嶽河海ノ別ア
レハ自ラ凸凹ナル所アリ又南北ノ兩極ニ於テ

少シク平ナリ然レトモ是ヲ地球全躰ノ至大ナルニ比較スルトキハ九牛ノ一毛ナルカ故ニ敢テ大差アルニ非ス
地球ヲ一回シ得ルコトヲ知レハ地球ノ周圍皆水陸ノニツニシテ各國其中ニ在リ皆各其住スル地ノ中真ヲ以テ下トナスヲ知ル故ニ我住スル地ハ乃チ彼カ住スル地ノ下ニシテ彼カ住スル地ハ乃チ我住スル地ノ下ナリ然レトモ上下左右ノ區別ナク萬物盡ク皆其地上ニ安置シテ須臾モ其所ヲ離レサルモノハ所謂造物者ノ妙

エニ出ル所ニシテ乃チ地球ノ引力ニ關係スル所以ナリ

地球自轉ノ略説

仰テ日月星辰ノ運動ヲ窺フトキハ常ニ東方ヨリ現出シテ西方ニ沈没スルカ如クナルカ故ニ地球ノ自轉スルコト環ノ端ナキカ如キヲ知ラス由テ若シ海底ニ何物カアリテ扶支ヘ或ハ地下ニ何物カアリテ基址トナルカヲ問ハ皆知ル能ハス歐羅巴洲「トルン」ノ天文學者「ニコラウス・コペルニクス」ト名クル先哲是ヲ經驗スルコト多年其功

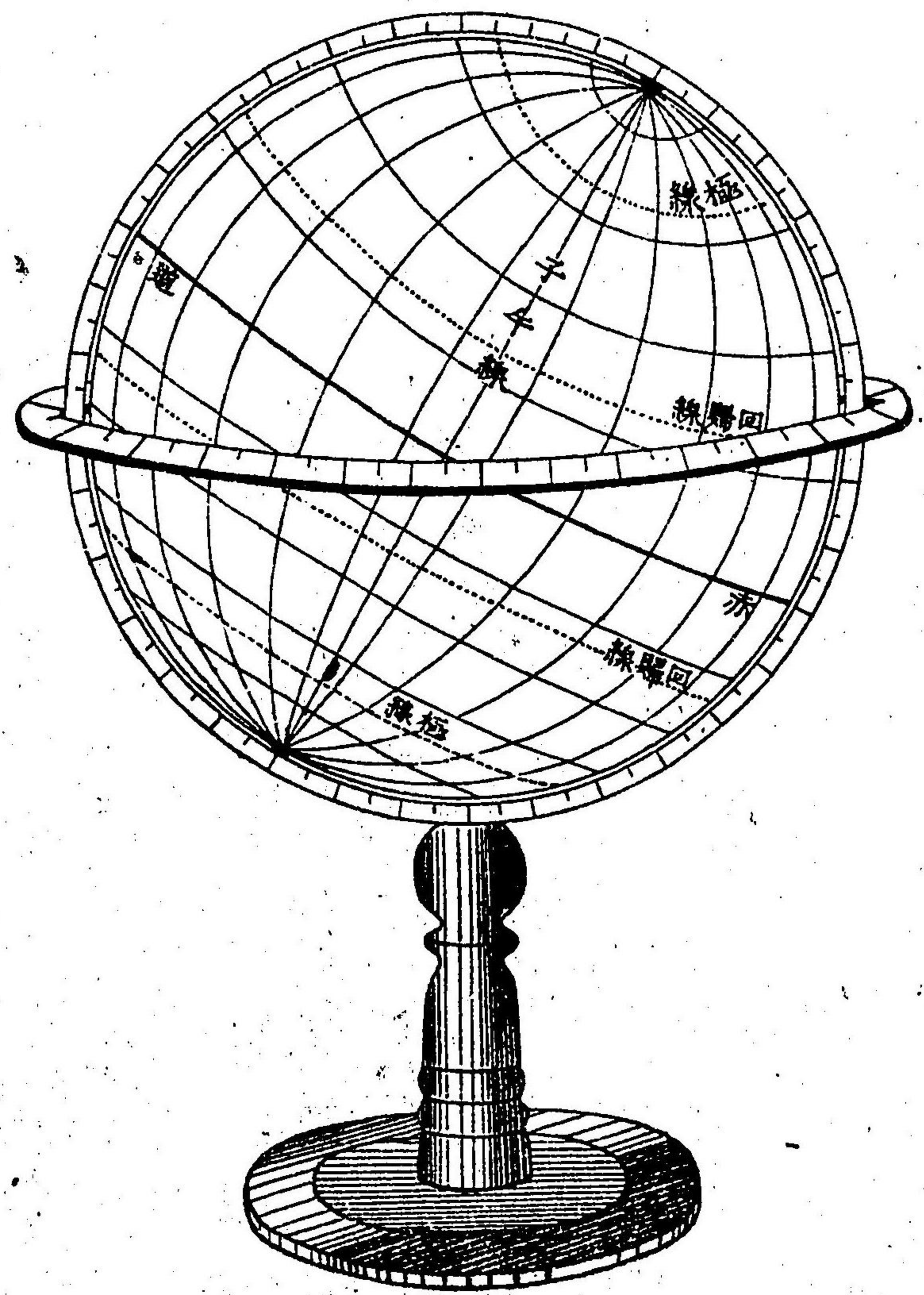
業空シカラスシテ大概千五百年ノ頃ニ至
リ遂ニ其自轉スルコトヲ發明シ其説行ハレテ
今ニ至ル蓋シ地球ノ自轉スル所以ハ二十四時
ノ間ニ晝夜ノ變化アルニ由テ知ルヘシ是ニ由
テ是ヲ推考スルトキハ其實皆地球須臾モ凝滯
セス西方ヨリ東方ニ自轉スルカ故ニ太陽直星
等ノ如キ運動セサル天象ノ却テ運動スルカ如
キヲ目視シ人皆地上ニ在テ其自轉スルニ隨ヒ
已カ躰モ亦西ヨリ東へ運轉スルコトヲ知覺セ
サル所以ハ是亦造物者ノ妙力ニ由レハナリ故

ニ天象ノ東ヨリ西ニ運動スルカ如キヲ見ハ即
チ舟行スル人其舟ノ進ムヲ忘レ却テ岸上ノ樹
木後ヘニ行ヲ見ルキ同シ是ヲ信セサルノ人ア
ラハ譬ハ屋根ノ如キ高所ニ登リ其端レヨリ其
直下ニアル地上ノ一點ヲ目的トナシ更ニ外ル
コトナク真直ニ木石或ハ金屬ノ如キ重キ物
一塊ヲ以テ其面ヲ的中スヘシ然レトモ必ス真
直ニ往テ的中スルコトナク東ニ片寄ル所ノ地
ニ達スヘシ是即チ地球ノ西ヨリ東ニ自轉スル
ノ確證ナリ

地球ノ中真ニ軸ト稱スル所アリ是レヲ地軸ト
 名ク地球是ニ由テ轉旋ス其兩端ハ南北ノ兩極
 ニアリテ其位置必ス方向ヲ變スルコトナシ此
 兩極ヨリ同距里ノ中間ニ於テ地球ノ表面ヲ一
 周シ其表面ヲニツニ分ケテ南北ノ半球トナス
 線アリ是ヲ赤道ト名ク又此線ト並ヒ各平行ニ
 地球ヲ一周シテ圈ヲ爲ス横線ヲ平行線ト名ク
 又赤道ヲ斷チ平行線ト直角ヲナシテ南北ノ兩
 極ニ轉ル縦線アリ是レヲ子午線ト名ケ其長大
 ナルコト都テ同シ然レトモ平行線ハ赤道ニ並

ヒテ圈ヲ爲スカ故ニ赤道ヨリ遠カリ南北ノ兩
 極ニ近ツクニ隨ヒ次第ニ其周圍狹小ヲ爲シ是
 ノ縦横ノ線ハ乃チ經度緯度ノ兩線ナリ赤道ヲ
 去ルコト南北各二十三度半ノ處ニ一ノ平行線
 アリ是ヲ回歸線又ニ至規ト名ク又南北兩極ヲ
 去ルコト赤道ノ方各二十三度半ノ處ニ一ノ平
 行線アリ是ヲ極線ト名ク子午線ノ一度ハ西洋
 地理學上ノ十五里ニシテ乃チ我カ二十八里零
 三ヲ有スルモノト知ルヘシ南北各所ノ距離ハ
 乃チ其間ノ子午線ノ長サナリ緯度ノ差アルヲ

地球儀之圖



地球儀之圖

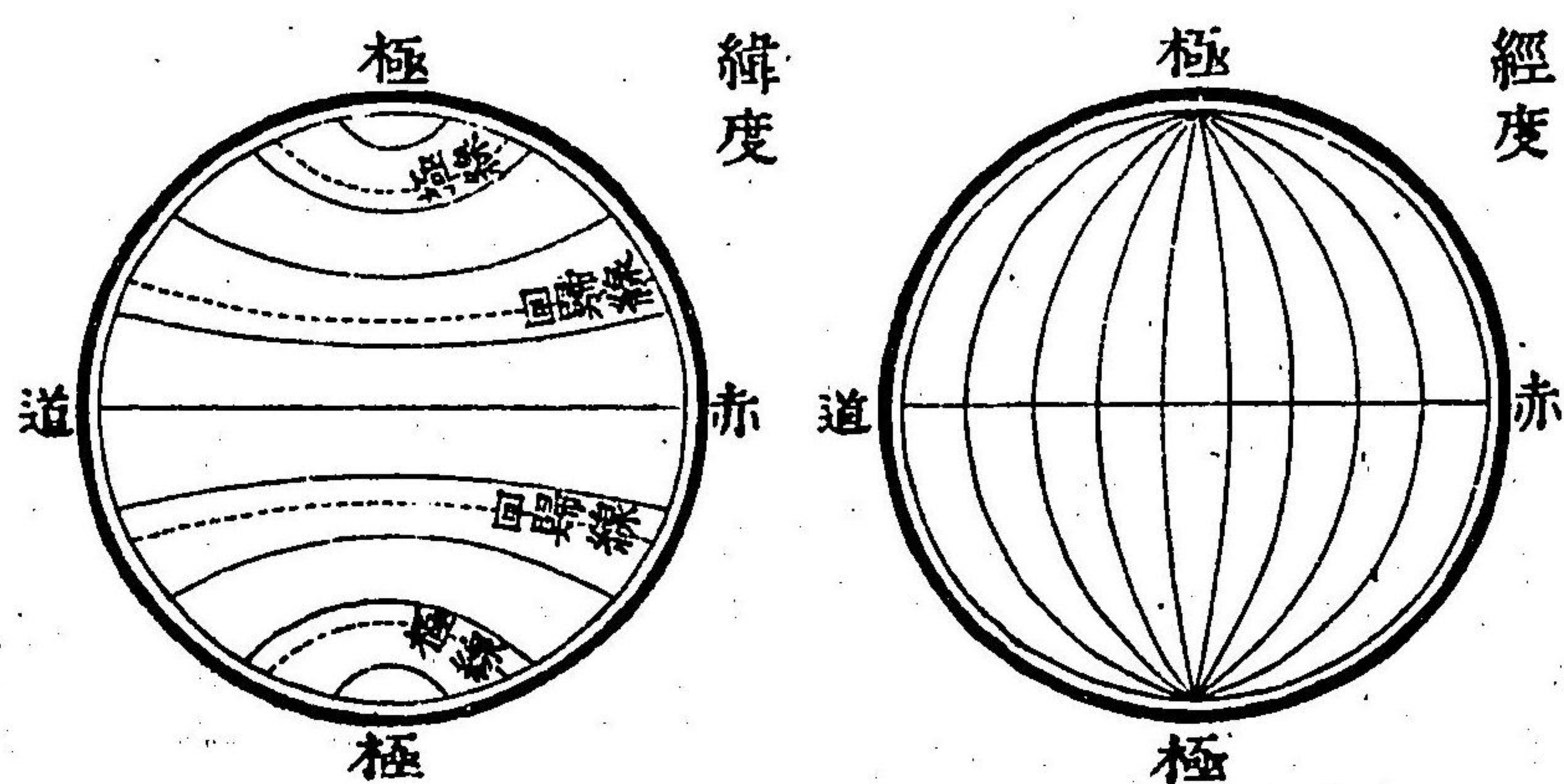
知ル時ハ是ニ里數ヲ乘算シテ其ノ距離ヲ得ヘ
シ東西ノ距離ハ乃チ兩所子午線ノ距離ニシテ
子午線ハ皆ナ兩極ニ轉リ一點トナルカ故ニソ
ノ地ノ緯度ノ大小ニ隨ヒソノ距離同シカラス
故ニ赤道ニ於テハ其一度前ニ云フ緯度ノ一度
ニ同シク南北ノ兩極ニ近ツクニ隨ヒソノ距離
次第ニ狹マリ三十五度ノ所ニテハ二十七里ヲ
以テ一度トナシ八十五度ノ處ニテハ大ヒニ狹
マリソノ一度ハ僅カニ二里半ノ距離ニ至ル兩
極、赤道子午線、平行線、回歸線、極線等ハ地球儀ヲ

見テ一目瞭然タル可シ

經度緯度ノ差

經度緯度ハ所謂ル地球ノ表面ヲ縱橫ニ周リ大
小ノ圈ヲナス線ニシテ縱線乃チ子午線ヲ經度
ト云ヒ橫線乃チ平行線ヲ緯度ト名ツク是レ皆
ナ地球上ノ全面ニアル海陸山川及ヒ各所邦土
ノ位置ヲ定メ距離ヲ測ルモノニシテ數理學ノ
定則ト同シク經度緯度ト共ニ各三百六十度ヲ
以テ地球ノ全面ヲ東西南北ノ四方ニ分チ其ノ
一度ヲ六十二分ケテ一分ト名ツケ復タ是レヲ

經度緯度之圖



六十二分ケテ一秒ト名ツケ
而シテ緯度ハ赤道ヨリ數へ
初メ南北兩極ノ九十度ニ至
リテ止ム故ニ東京ノ如キ北
緯度三十五度三十五分ニア
リト云フハ乃チ赤道ヨリ北
ノ方ヨリ度數ノ所ニアレハ
ナリ赤道ヨリ北ニ位スル緯
度ヲ北緯度ト云ヒ赤道ヨリ
南ニ位スル緯度ヲ南緯度ト

云フ
 經度ハ其ノ數ヘ初ムル處ヲ第一ノ經度ト定メ
 東西ニ數ヘテ各百八十度ニ至リ止ム故ニ東ニ
 數フルモノヲ東經度トナシ西ニ數フルモノヲ
 西經度トナシ東西合シテ三百六十度ヲナス然
 レトモ各國ニ於テ其都府或ハ航海曆ヲ製スル
 天文臺等ノ如キ所ノ頂點ニ位スル子午線ヲ以
 テ第一ノ經度ト定メ數ヘ始ムルカ故ニ今マ其
 ノ何レヲ第一ノ經度ト確定シ難シ獨乙噠國瑞
 典和蘭等ノ航海者ハ英人ト同シク英國「ギレン

ウツチノ地ニアル天文臺ノ頂點ニ位スル子午
 線ヲ以テ第一ノ經度ト定メ佛國ニ於テハ都府
 巴黎ノ地ニアル天文臺ノ頂點ニ位スル子午線
 ヲ以テ第一ノ經度ト定ム又亞非利加ノ西海大
 西洋ノ「ヘルロ島ノ頂點ニ位スル子午線ヲ以テ第
 一ノ經度ト定ムルモノアリ
 四角ナル地圖ニ當リ四方ノ端ニ記載シタル數
 字ハ經度緯度ヲ知ラシムルモノニシテソノ上
 下兩端ノ數字ハ經度ヲ數フルニ便ニシ左右ノ
 兩端ニアル數字ハ緯度ヲ數フルニ便ニス

晝夜及ヒ時刻ノ差

晝夜ノ差ハ乃チ地球自轉シテ旋リ半體ニ太陽ノ光線ヲ受ルカ爲メナリ故ニ太陽ニ面スル半球ノ地ハ晝ニシテ其後ニアリ太陽ニ背ク半球ノ地ハ乃チ夜トナス蓋シ地球ハ四分時間ニシテ經度一度ヲ旋轉シ一時間ニシテ經度十五度ヲ旋轉シ二十四時間乃チ一晝夜ニシテ經度三百六十度ノ全體ヲ一旋轉スルカ爲メニ十二時間ハ晝トナリ十二時間ハ夜トナル所以ナリ各地ニ於テ太陽其所ノ頂點ニ位スル子午線ニ正中ス

ルノ時ハ乃チ正午十二時ナリ譬ヘハ今太陽此地ノ頂點ニ位スル子午線ニ正中スルカ故ニコノ地ハ正午十二時ナレトモ其他ノ地ハ皆ナ午前午後ニシテ太陽ノ正中スル正午ノ地ヲ隔テ西ノ方經度十五度ノ處ニアル地ハ午前十一時トナシ東ノ方經度十五度ノ處ニアル地ハ午後第一時トナシ東西ノ徑度各百八十度ヲ隔ル處ハ正午ノ地ノ直下ニ反對スル地ナレハ夜半トナス餘ハ皆之ニ倣フ
 普魯士ノ都府「ベルリン」ハ佛蘭西ノ都府「巴黎」ヨ

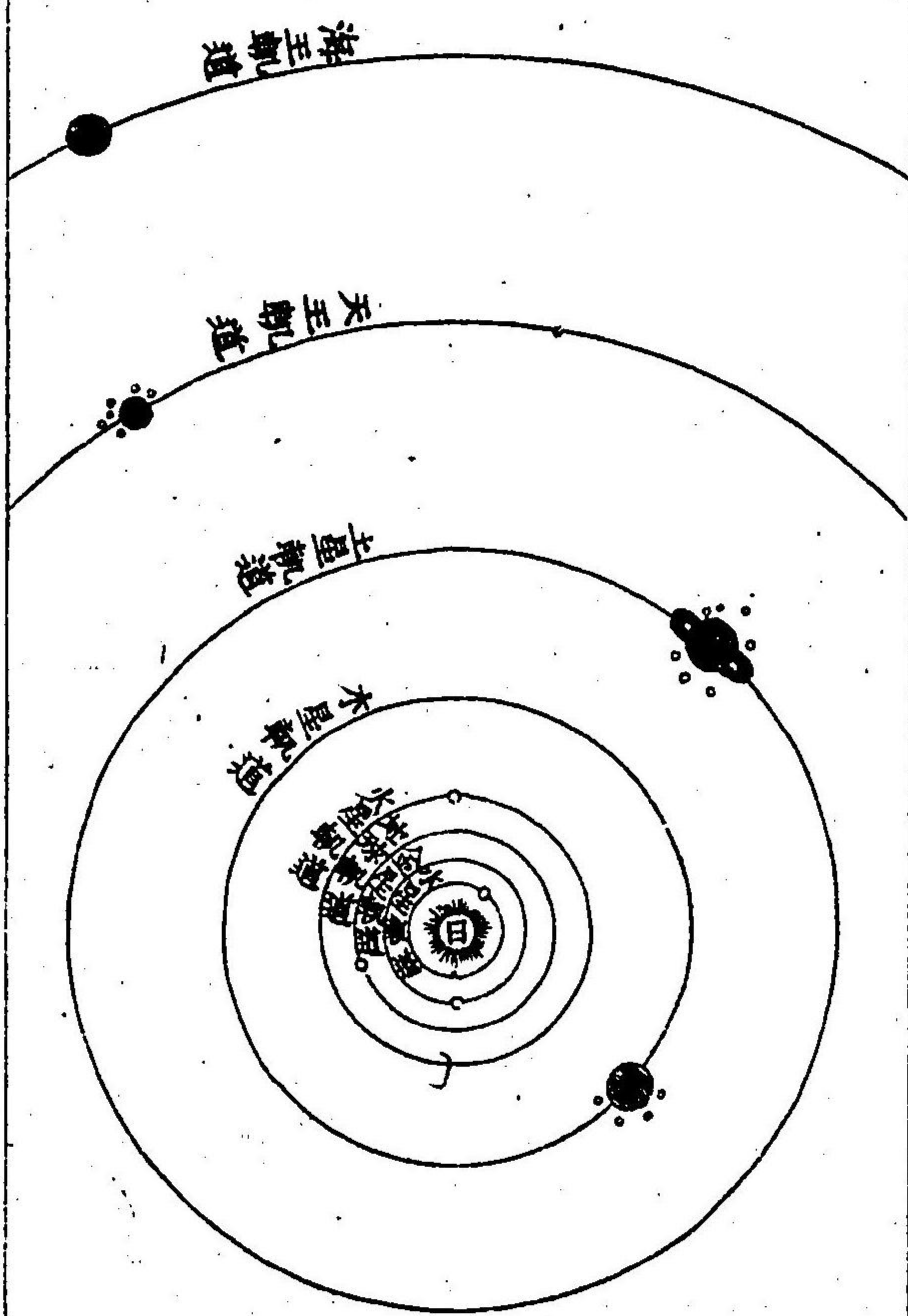
リ經度ヲ隔ルコト十一度ノ東ニアルカ故ニ巴黎ニ於テ正午十二時ニハ「ベルリン」ニ於テ午後第一時十六分時前ナリ又「メルリン」ニ於テ午前第十時ニ出ス處ノ電信途ニ遲滯スル障礙ナキトキハ同日午前第九時十六分時ニシテ巴黎ニ達スルヲ得ヘシ又「ベルリン」ニ於テ千八百七十年第一月一日ノ曉前第十二時後二十分時ヲ過キテ出ス處ノ電信途ニ遲滯スル障礙ナキトキハ千八百六十九年十二月三十一日宵ノ十一時三十六分時ヲ過キテ巴黎ニ達スルヲ得ヘシ是

地球西ヨリ東ニ旋轉スルニ當リ僅カニ經度一度ノ距離ヲ隔ルトキハ四分時間ノ差アル故ニ此ノ如シ

四季變更ノ略説

地球ノ運轉ニ自轉運行ノ二種アリ自轉ト運行ト其時ヲ同フスト雖トモ其運轉スルトコロ大ニ異ナリ一日ノ間ニ獨リ全體ヲ一旋轉スルヲ自轉トナシ水星金星火星木星土星海王星天王星ノ七遊星ノ如ク橢圓ナル軌道上ヲ行テ一年ノ間ニ太陽ヲ一周スルヲ運行トナス然レトモ

遊星軌道之圖

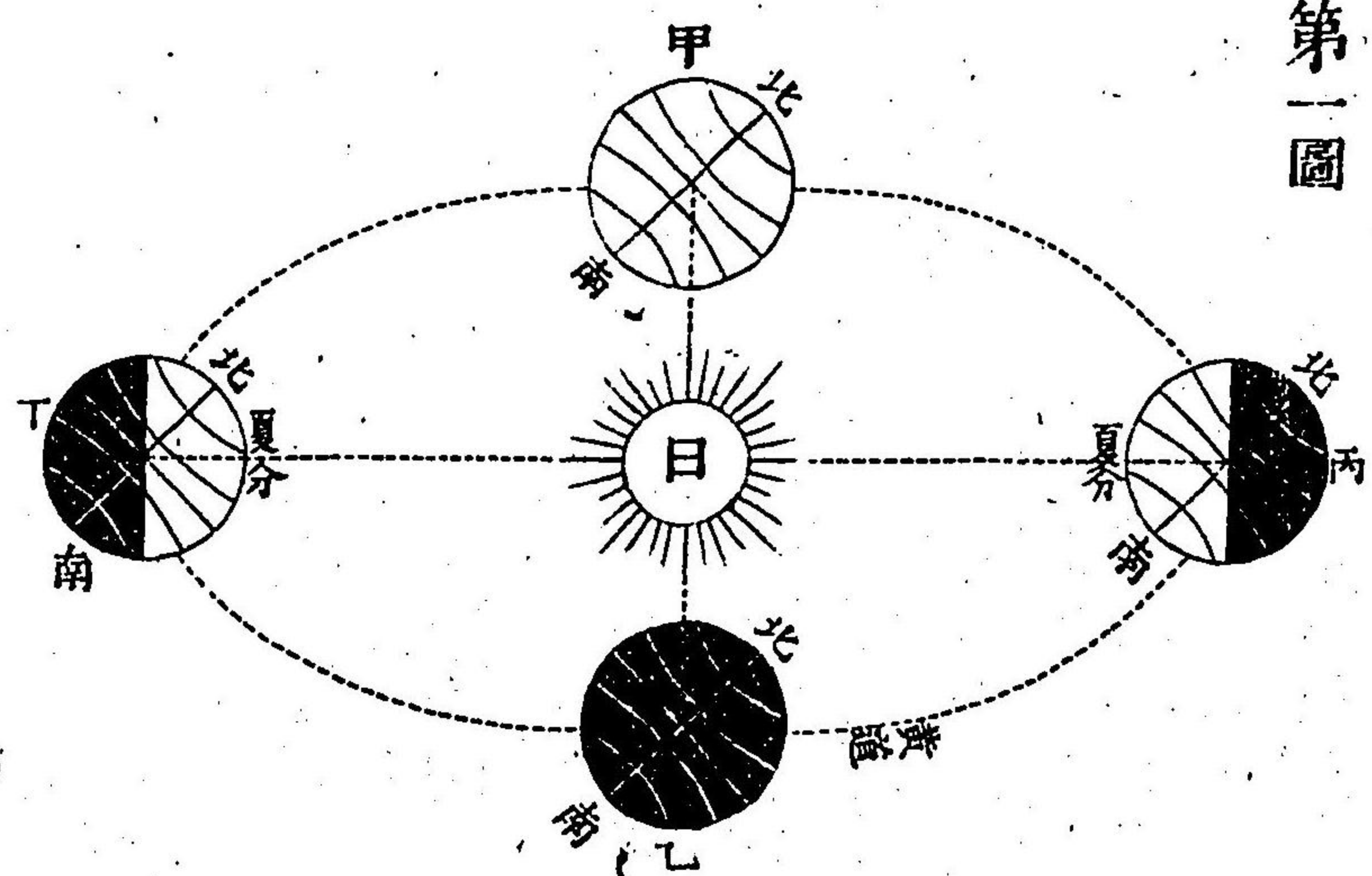


地球ト七遊星トノ運行スル各遲速アリ地球運
 行シテ軌道上ヲ一回スルノ間ニ自轉スルコト
 三百六十五回余須臾モ礙滯スルコトナシ地球

ノ軌道ハ七遊星ノ軌道ト其所ヲ同フセサルカ
 故ニ其長サモ同シカラズ順テ太陽ヲ離ル、遠
 近モ亦大ニ異ナリ地球太陽ヨリ三千八百九十
 二萬余里ノ距離ヲ隔テ長サ二億四千四百八十
 六萬七千余里ノ軌道ヲ三百六十五日五時四十
 八分四十八秒間ニシテ一週ス故ニ一時間ニシ
 テ二萬七千九百四十六里ヲ經過シ一秒時間ニ
 シテ七里半有余ヲ行ク其速力駭ク可シト雖ト
 モ日光ノ速力ニ比較スレハ遠ク及ハサル者ニ
 シテ日光ハ一秒時間ニ八萬一千零八十三里三

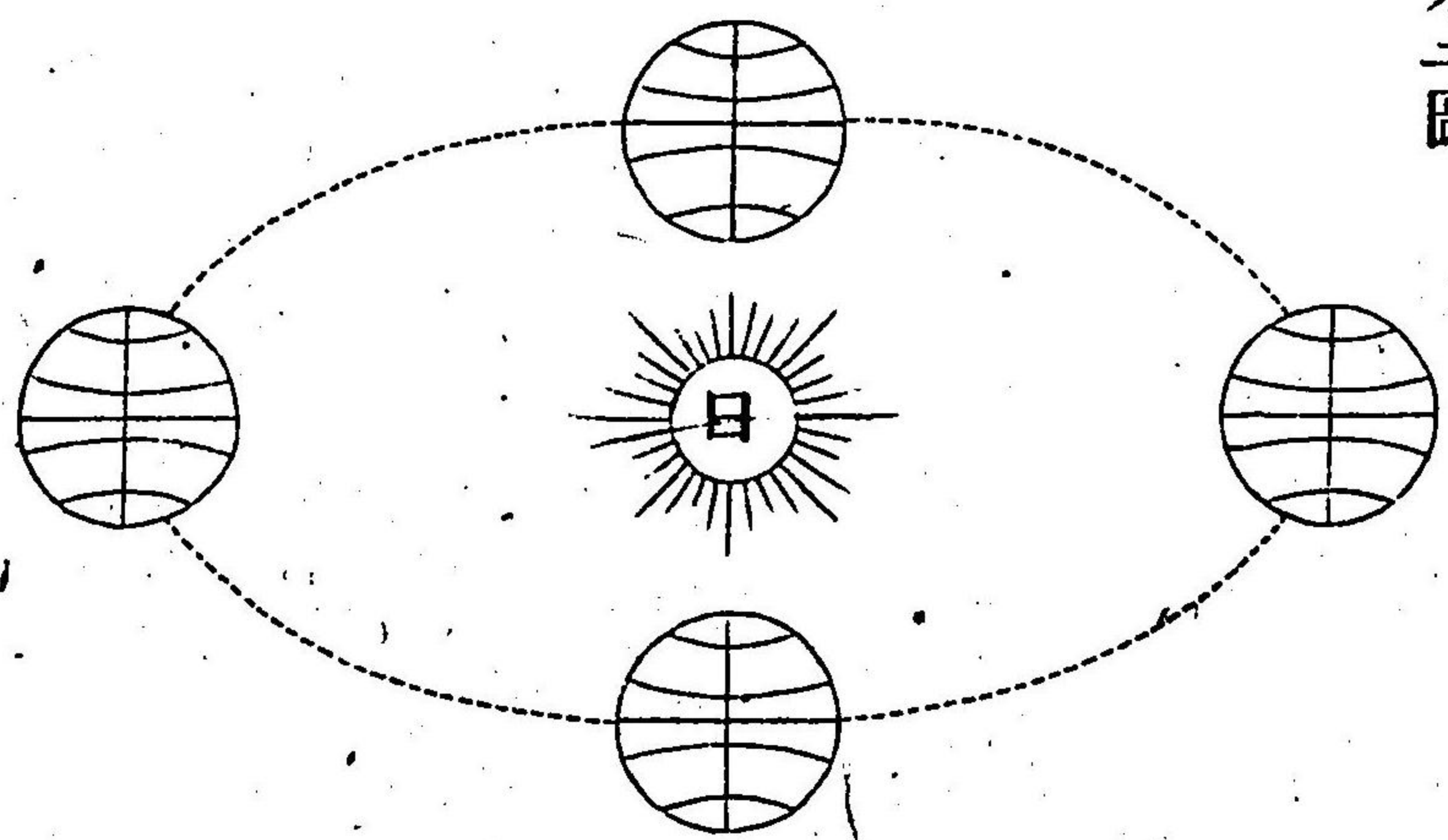
分ノ一有餘ヲ行クト云フ
 地球ノ軌道ヲ又黃道ト名ク一年ノ間ニ四季ノ
 變更アルハ乃チ地球黃道ヲ運行スルニ當リ其
 軸黃道ノ面ト直角ヲ爲サスシテ二十三度半ノ
 交角ヲ爲ス故ナリ記載シタル第一圖ノ如ク地
 球黃道ヲ運行シ甲乙ノ處ニ來ル時ハ日光赤道
 上ヲ直射シ晝夜長短ナク春秋ノ二分トナシ丙
 ノ處ニ來ル時ハ南半球ニ日光ヲ受ルコト多キ
 カ故ニ南半球ノ夏分ニシテ北半球ノ冬分トナ
 シ又丁ニ來ル時ハ北半球ニ日光ヲ受ルコト多

第一圖



キカ故ニ北半球ノ夏分ト
 ナリ南半球ノ冬分トナル
 其他地球運行シテ黃道上
 ノ位置ヲ變スルニ隨ヒ次
 第二氣候ノ變更スルコト
 推シテ知ルヘシ若シ地球
 黃道ヲ運行スルニ當リ第
 二圖ノ如ク地軸黃道ノ面
 ト直角ヲ爲ストキハ日光
 周歲赤道上ニ直射シテ寒

第二圖



暑易ハラス寒暑易ハラサルトキハ四季ノ變更ナク四季ノ變更ナキトキハ人獸草木皆其生ヲ安スル能ハス三月二十一日及ヒ九月二十二日ノ兩日ニハ太陽赤道ヲ直射スルカ故ニ地球南北ノ兩極ニ至ルマテ全表面ニ光線ヲ受ク六月二十一日ニハ太陽北半

球回歸線ヲ直射スルカ故ニ北極線外遠キヲ隔ルノ地ニ至ルマテ光線ヲ受ク然レトモ南半球ハ是ト反シ南極線外ノ地ニ於テハ光線ヲ受ル能ハス十二月二十一日ニ至リ太陽南半球回歸線ヲ直射スルカ故ニ南極線外遠キヲ隔ルノ地ニ至ルマテ光線ヲ受クコノ時ニ當リ北半球ハ以前ト反シ北極線外ノ地ニ於テハ光線ヲ受ル能ハス故ニ三月二十一日ヨリ六月二十一日ニ至ルマテヲ春分トナシ六月二十二日ヨリ九月二十一日ニ至ルマテヲ夏分トナシ九月二十二

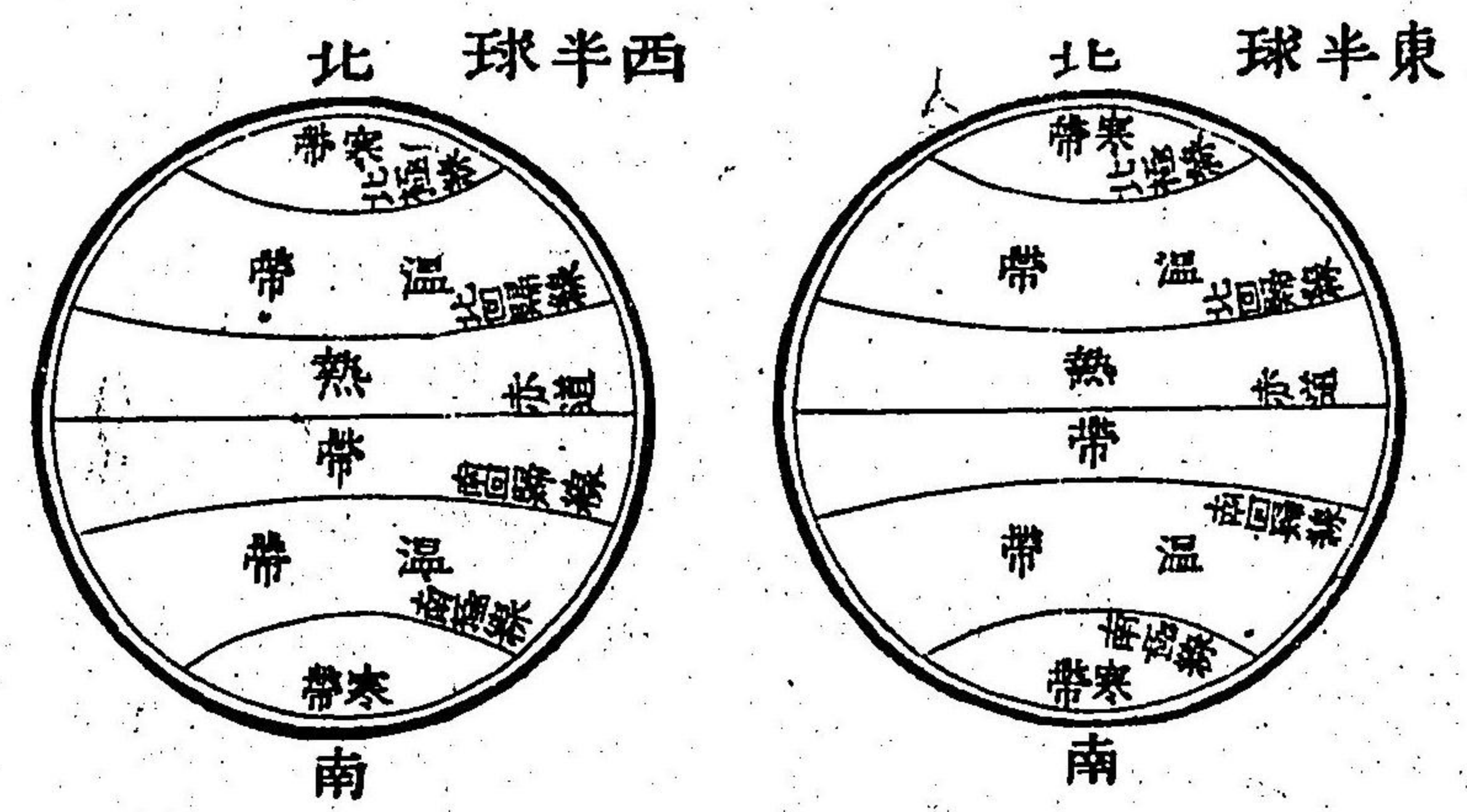
日ヨリ十二月二十一日ニ至ルマテヲ秋分トナシ十二月二十二日ヨリ三月二十一日ニ至ルマテヲ冬分トナス

地球五帶ノ區分

大陽常ニ南北兩回歸線ノ間ニ在ルカ故ニ地球上赤道近傍ノ地ハ光線直射シテ常ニ熱ス然レトモ回歸線ニ赤道ヲ隔ル各外南北ニ距ルニ隨ヒ光線斜射シテ次第ニ寒ク極線ニ赤道ヲ隔ル各外ノ地ニ至テハ日光ヲ受クルコト極メテ斜メニ隨テ又寒氣烈シク此地ノ人民ノ如キハ大陽ノ

地平上ニ高ク出ルヲ見ル能ハサルモノト云フ是ニ由テ地球ノ表面ヲ五帶ニ區分シ赤道ノ左右南北兩回歸線ノ間ヲ熱帶ト名ツケ回歸線ト極線ノ間ヲ南北各溫帶ト名ク極線ヨリ以外兩極ニ至ルマテヲ各寒帶トナス熱帶ノ地ニ於テハ晝夜長短ノ差少ク殆ント同フシテ晝夜變更ノ時間甚タ短シ又溫帶ノ地ニ於テハ晝夜短長ノ差大ニシテ晝夜變更ノ時間モ亦タ較々長シ寒帶ノ地ニ於テハ熱帶ノ地ト反シ晝夜變更ノ時間至テ長シ日本、支那、歐羅巴洲ノ諸國亞非利

地球五帶之圖



加洲ノ北部北亞米利加洲
 合洲國ノ如キハ其氣候各
 地勢ニ從ヒ異同アリト雖
 トモ温帶中ニ在ルカ故ニ
 概シテ之ヲ論スルトキハ
 寒帶中ノ地ノ如ク寒氣ソ
 凜烈タルヲ覺エス熱帶中
 ノ地ノ如ク熱氣ノ酷烈ナ
 ルヲ覺エスシテ澄和ナル
 幸福ノ地ト云フニ足レリ

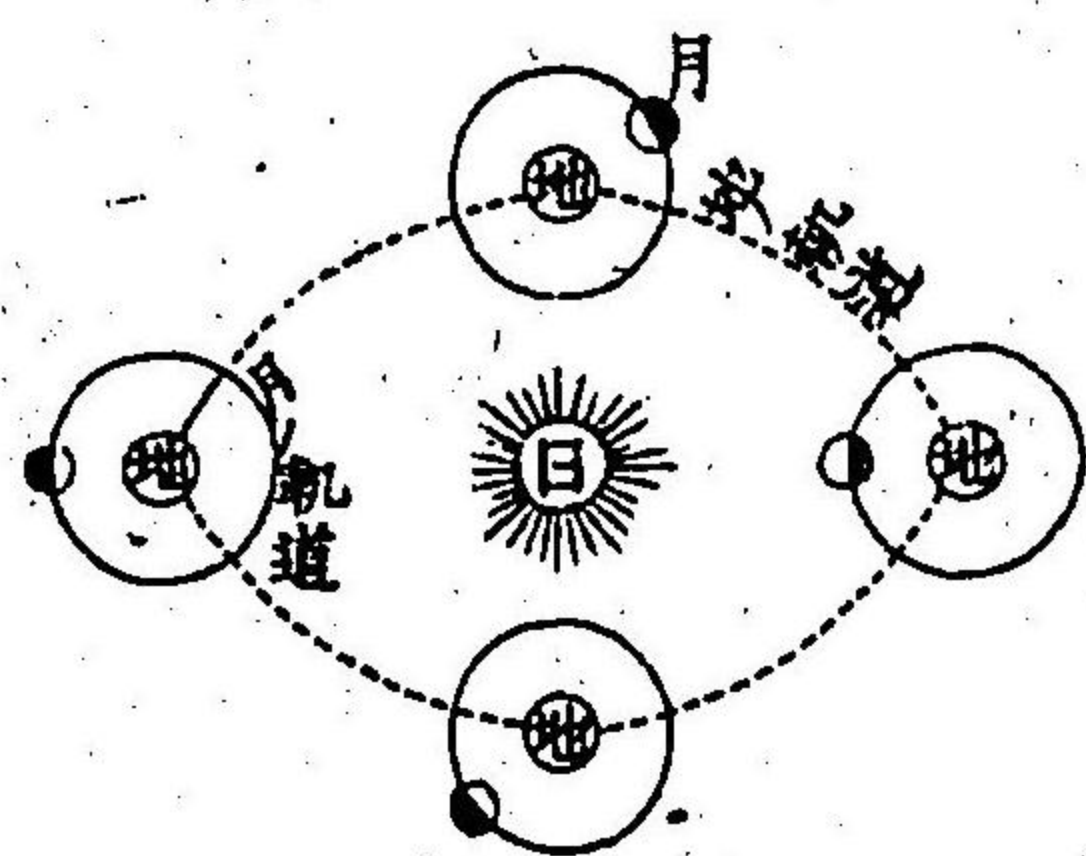
トス

月ノ盈缺ノ略説

夫レ月ハ元ト暗黒ナル一ノ遊星ニシテ近ク地
 球ヲ週リ地球ノ太陽ヲ週ルニ隨テ又太陽ヲ週
 ルモノトナス其ノ軌道地球軌道ノ面ト五度余
 ノ小角ヲナス蓋シ月ノ光アルハ表面ニ太陽ノ
 光線ヲ反射スルカ爲メナリ左圖ノ如ク月行テ
 太陽ト地球ノ間ニアルトキハ地球ニ在ッテ月
 ノ光ヲ見ルコト能ハス唯其太陽ニ背クノ處ヲ
 見ル是月ノ本體ニ光リナク唯太陽ニ面スルノ

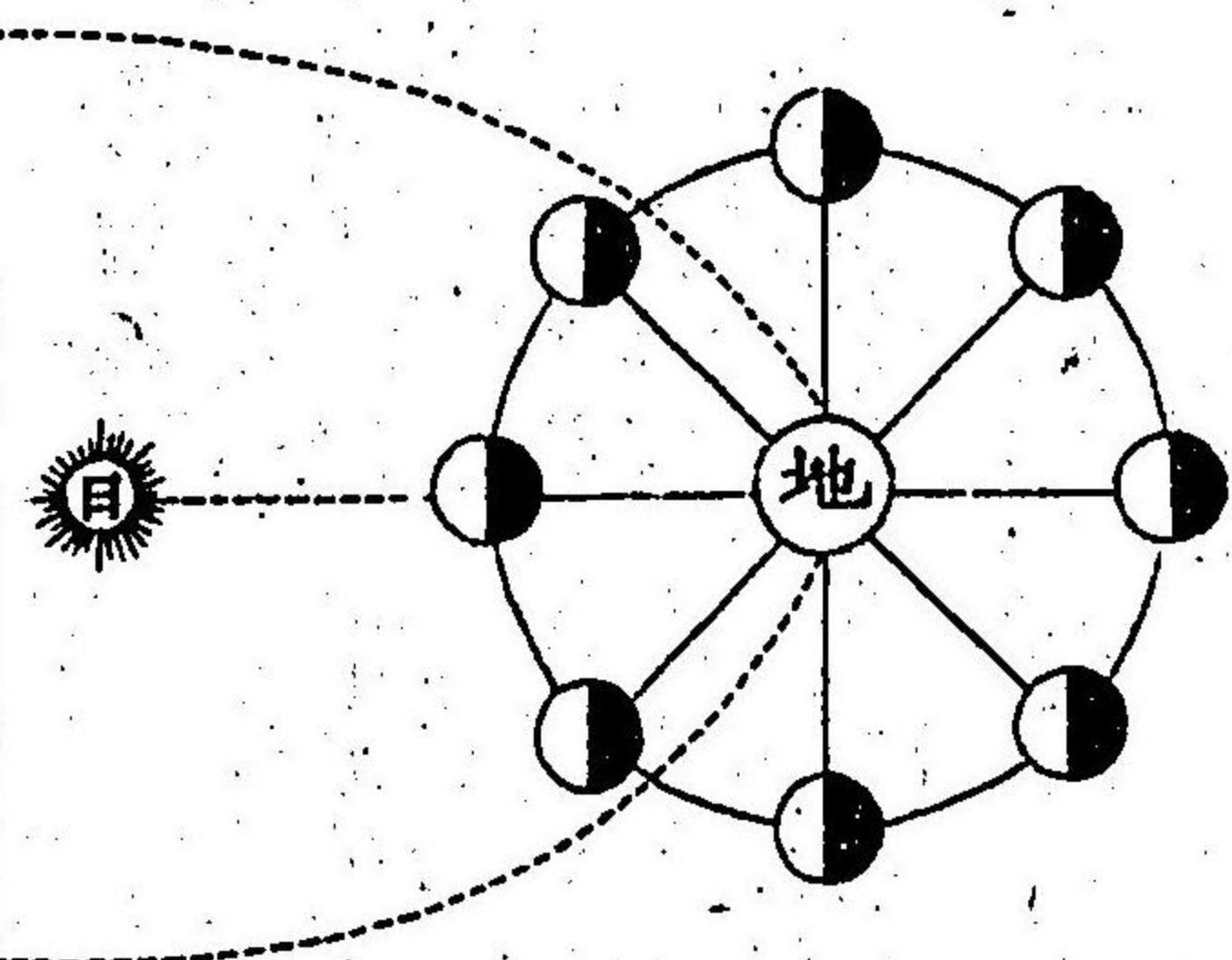
圖之轉運各月地

右



圖之缺盈之月

左



處ニ光ヲ顯ハス故ナリ
 二三日ヲ過キ月漸ク行
 キ大陽ヲ距ルコト十二
 三度ニシテ人僅ニ月體
 ノ西端ニ光ヲ露ハス一
 線ナルヲ見ル是レヲ新
 月トナス其上弦ノ所角
 東ニ向フ翌日ニ至リ漸
 ク行テ大陽ヲ隔ルコト
 十八九度其光ヲ顯ハス

蛾眉ノ如キヲ見ル次第ニ行テ大陽ヲ距ルコト
 數十度光ヲ顯ハス漸ク濶キヲ見ル七日ヲ過テ
 則チ半體ノ光ヲ顯ハス是ヲ半月トナス是乃チ
 大陽ヲ距ルコト九十度ノ時ニシテ正午十二時
 ニ顯出シ夜半十二時ニ没ス漸ク追ヒ行ヒテ大
 陽ノ左右ヲ距ルコト各百八十度ニ至リ地球ヲ
 中ニ狹シテ日ト東西ニ相對シ半面ニ全ク光線
 ヲ受ク是ヲ以テ光リ圓キコト珠ノコトシ是レ
 ヲ滿月トナス是レヨリ西シテ日ヲ經ルニ隨ヒ
 次第ニ光ヲ減シ七日ヲ過レハ光復夕半ヲ減シ

テ半月トナリ夜半十二時ニ顯出シテ正午十二時ニ至リ没ス漸々西ニ行クニ隨ヒ復タ舊ノ如ク蛾眉ノ形ニ至リ二十六七日ノ後ニ及ヒ終ニ減少シテ一線ノ光ニ至リ兩角西ニ向ヒ下弦ヲナシ直ニ三十日目ニ至テ復ヒ太陽ト地球ノ間ニ進ム地球ニ於テ又其光ヲ見ル能ハス是ヨリ復タ前ノ如ク週リ始ルコト環ノ端ナキカ如ク萬世其方向ヲ變セサルコト眞ニ明瞭ナリトス

日蝕月蝕ノ略説

日月ノ蝕スルハ本一定ノ期アルニ由ル月軌道

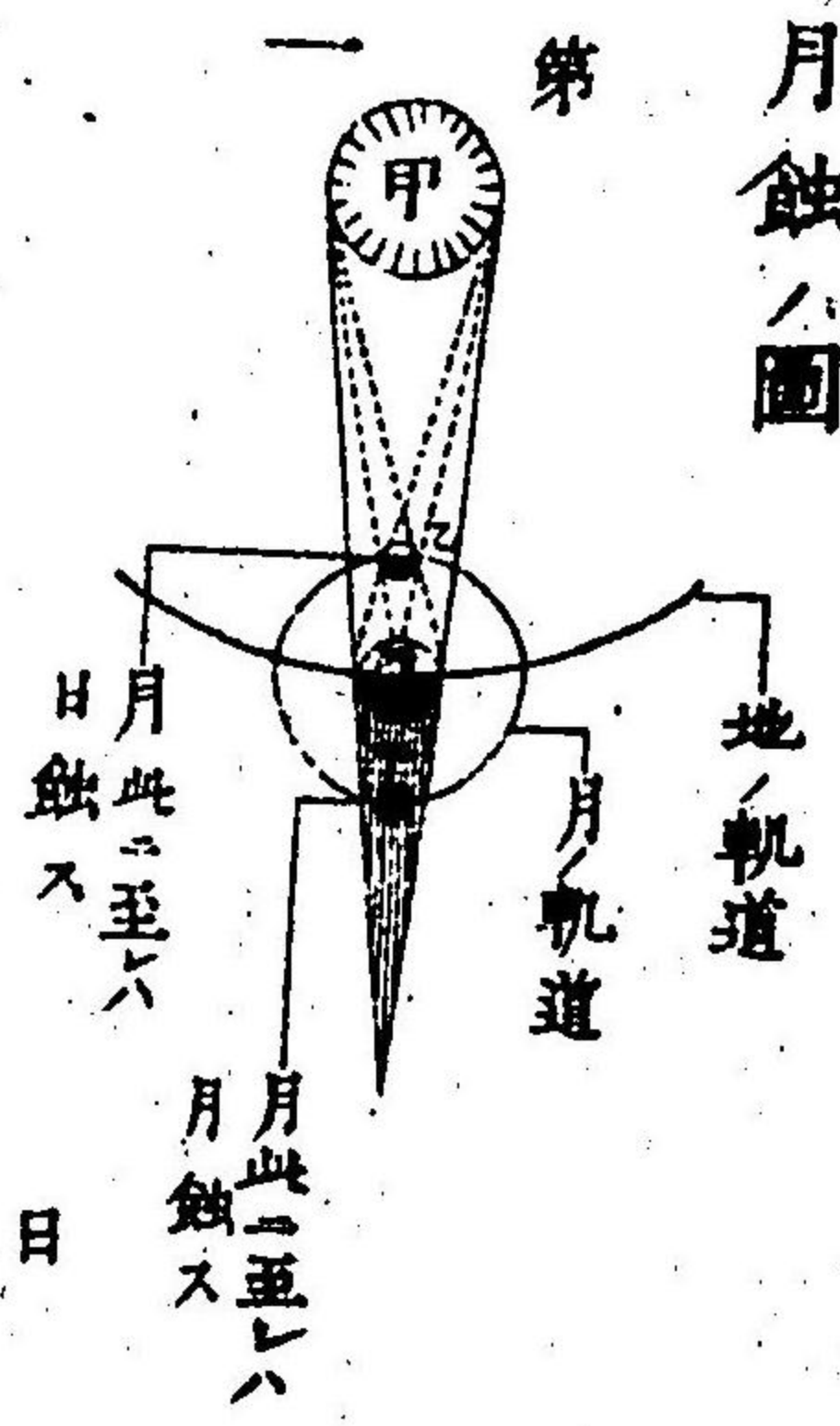
ヲ週リ太陽ト地球ノ間ニ接シ太陽ノ光線ヲ遮テ其影地球ヲ蔽フ時ヲ日蝕トナシ又週リテ地球ヲ狭ミ太陽ト隔タリ地球ノ爲メニ光線ヲ遮ラレテ地球ノ影ニ蔽ル時ヲ月蝕トナス遮ラルノ處ニ人其光ヲ見ル能ハス尚人アリテ一ノ黒キ物ヲ燈ノ前或ハ日光ニ前テ掛置クトキハ其物ノ後ニ必ス一ノ黑影ヲ現ハスヲ見ルカ如シ地球モ亦元ト黒体ノ物ナルカ故ニ光線ニ面スル地ノ背ニ在テハ亦夕一ノ黑影ヲ現ハス可シ記載スル處ノ第一第二第三ノ圖ヲ見ルトキ

ハ便チ日ノ蝕スル理ヲ解シ第一第四ノ圖ヲ見
 ルトキ八月ノ蝕スル理ヲ詳審ニ解明セン第一
 圖ニ於テ^甲ノ圓圈ヲ大陽トナシ^乙ノ圓圈ヲ月
 トナシ其後下ニアル黒ク尖リタル痕ヲ月ノ影
 トナシ^丙ノ圓圈ヲ地球トナシ^丁ノ圓圈ヲ又月
 トナス地球ノ外ヲ圈ル線ハ即チ是レ月ノ地球
 ヲ週ル軌道トナス地球ノ後下ニ在テ下端ノ尖
 リタル暗黒ナル痕ハ是レ地球ノ大陽ニ背ク影
 ナリ其他熟視シテ知ルヘシ月軌道ヲ週リテ每
 月^乙^丁ノ處ヲ經過スルニ縁リ毎月各一度ツ、

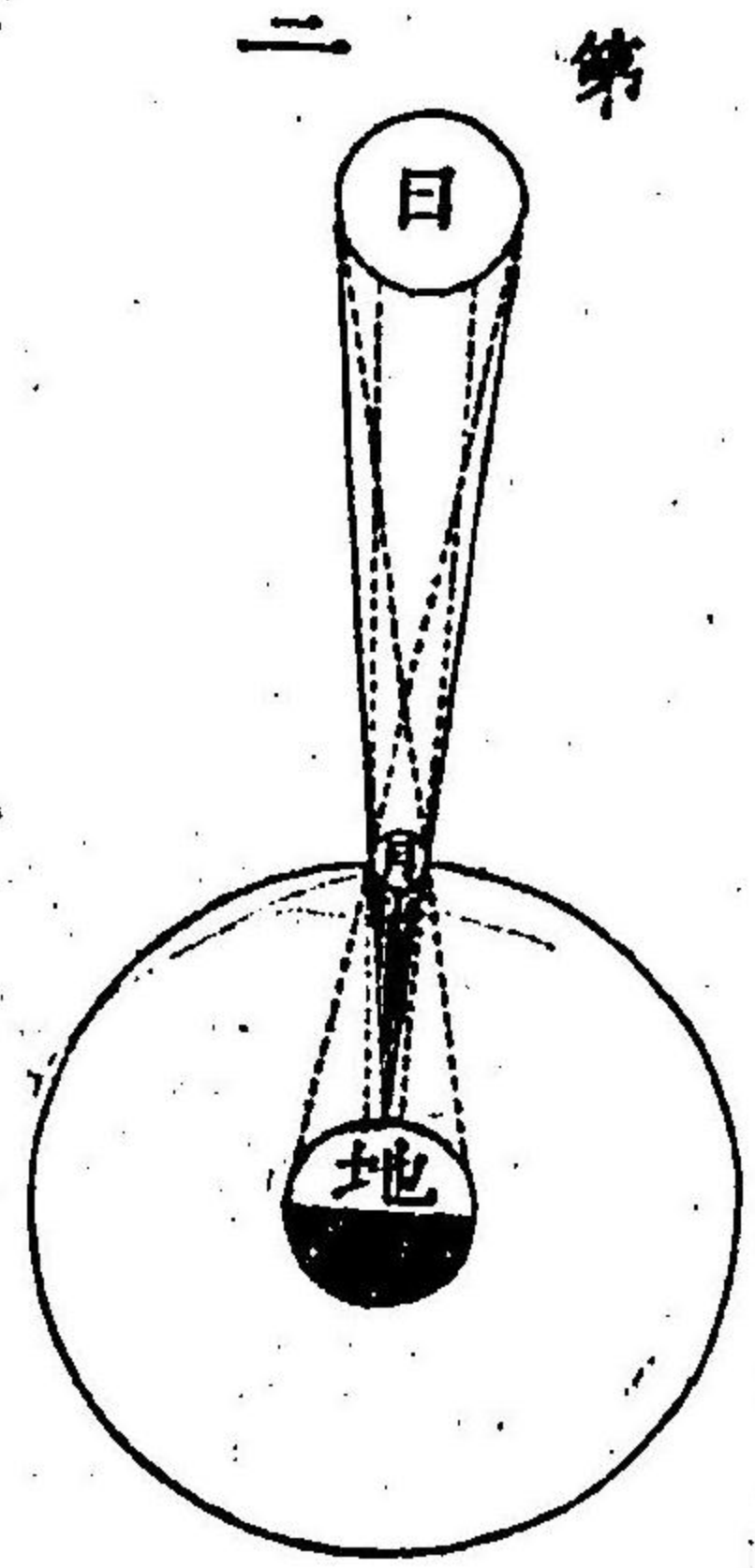
ノ日蝕月蝕アルニ似タレトモ然ラス蓋シ月ノ
 軌道ハ地球ノ軌道ト共ニ平行ナラサル故ナリ
 倘シ平行ナラシムルトキハ毎月必ス日月各一
 度ノ蝕ヲ爲サン其蝕セサルモノハ兩軌道ノ高
 低斜メニシテ五度余ノ交角ヲナスニ縁ル必ス
 月行テ交軌ノ中ニ至リ太陽地球ト同シク一直
 線ナルヲ待テ始メテ地影ニ月ヲ蔽ハル是ヲ以
 テ蝕久シキアリ短キアリ半蝕ヲ爲スアリ全蝕
 ヲ成スアリ實ニ兩軌道皆ナ是レ橢圓形式ナル
 ニ縁ル若シ地影斜メニ交軌ヲ掩フ十二度月ノ

行ク正ニ交軌ノ中ヲ過ルトキハ是レ全蝕シテ
 久シキヲナス須クニ時ヲ待テ而後ニ復タ盈
 ハシ或ハ數度ヲ離ル、トキハ全ク掩フト雖ト
 モ亦久シク蝕セス度ヲ離ル、漸ク多キトキハ
 蝕スル處漸ク少ナシ若シ離ル、コト十二度以
 外ニ至レハ月体竟ニ蝕セラル、能ハス凡テ初
 メ蝕スルノ時ハ必ス東ヨリ初マリ地影月ノ軌
 道ニ入ル地影月体ヨリ大ナルコト殆トニ倍ナ
 ルカ故ニ太陽地球ヨリ大ナリト雖トモ光線能
 ク地影ノ後ニ包有ス是ヲ以テ地球ノ影大リ長

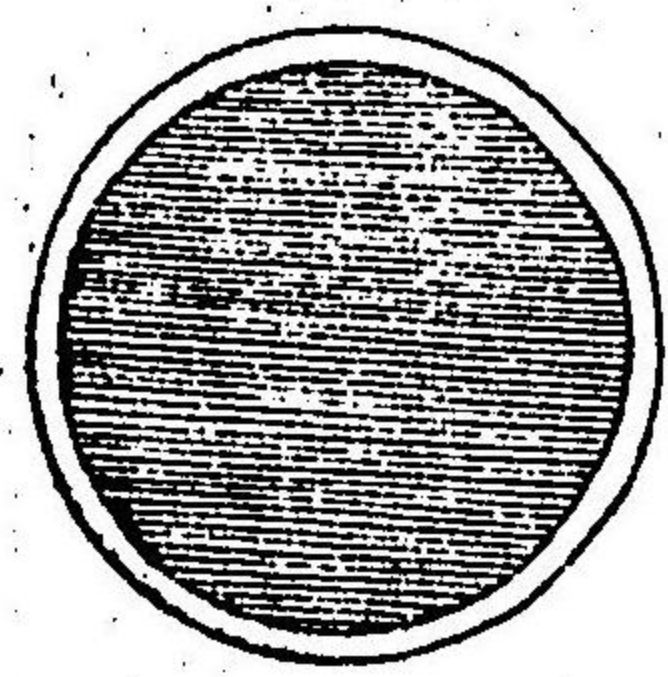
日月蝕ノ圖



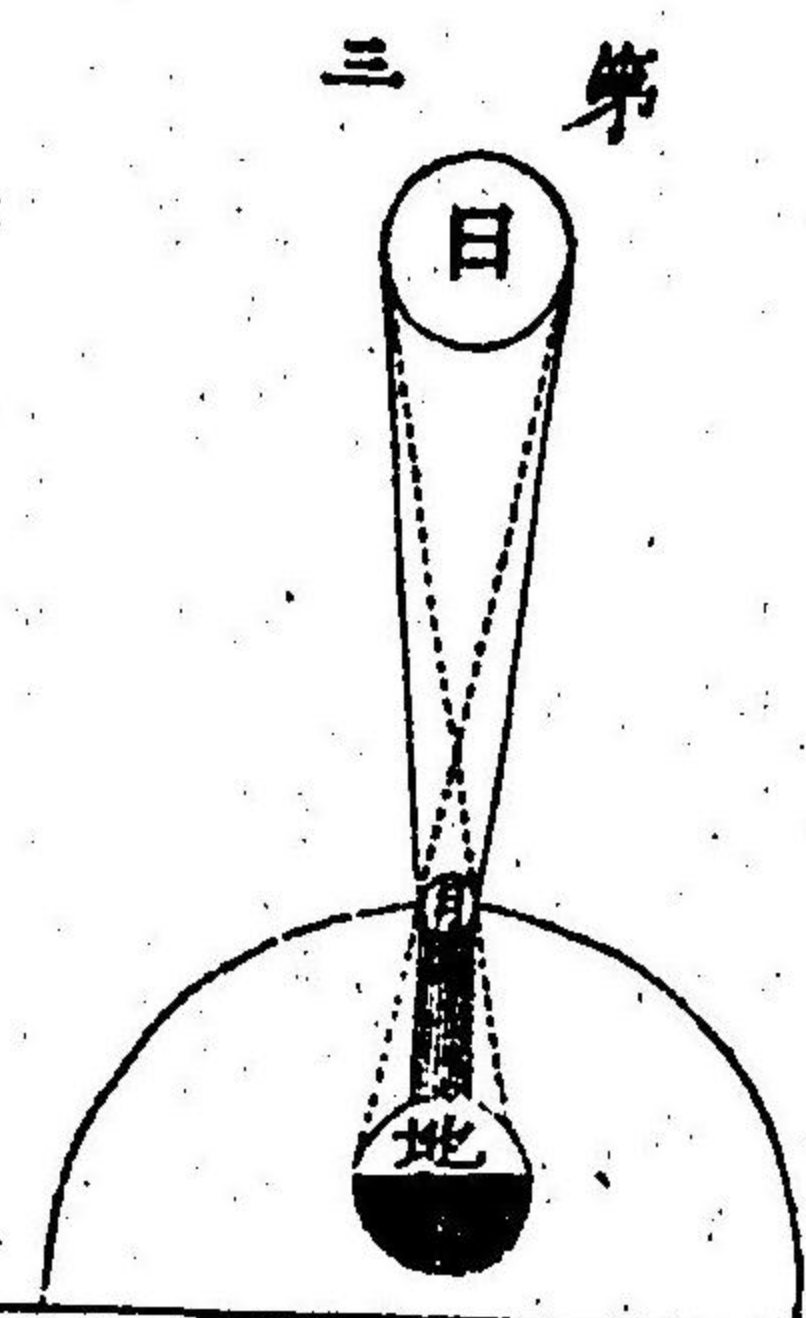
日蝕ノ圖



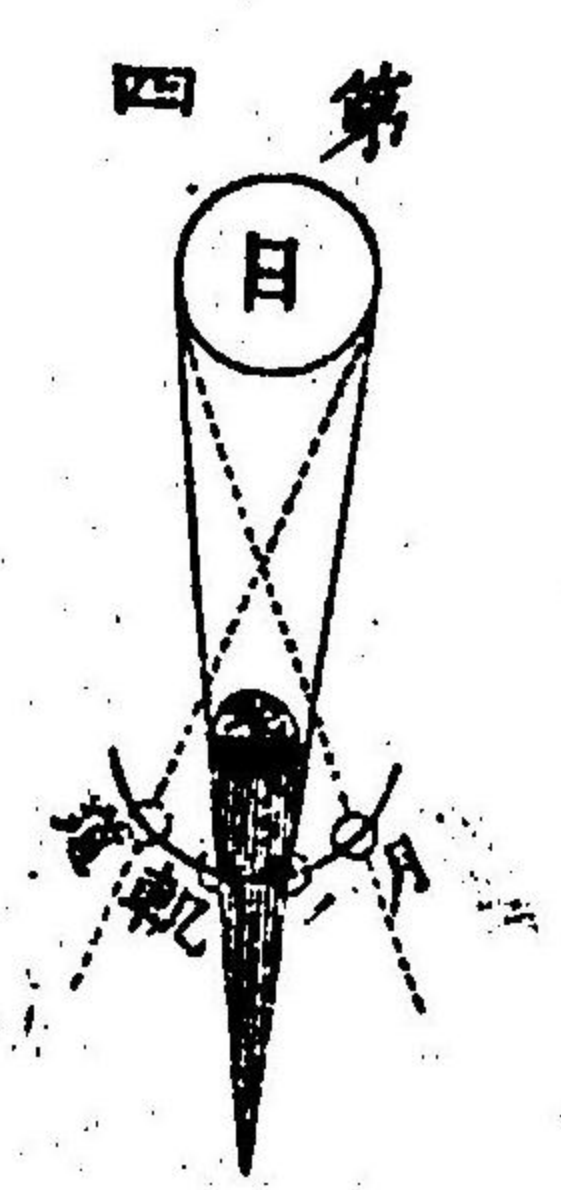
日蝕ノ形輪



日大ニ蝕スノ圖



月蝕ノ圖



夕初メ大ヒニシテ漸ク小シ若シ地球ト太陽ト
 其大サヲ同フスルトキハ地影平カニ遠クシテ
 極ナカル可シ月ノ蝕スルヤ各國皆同時ニアリ
 北半球均シク與ニ同シク夜ニシテ地影與ニ同
 シク見ルニ因リ是ヲ日蝕ニ較レハ自カラ將ニ
 別アルヘシ蓋シ日蝕ハ必ス月軌道ヲ行テ太陽
 ト地球ノ間ニ接シ太陽ノ光線ヲ遮テ其影地球
 ヲ掩フノ時ニアリ第二圖ヲ見ヨ上ノ圓圈ヲ太
 陽トナシ中ノ圓圈ヲ月トナシ下ノ圓圈ヲ地球
 トナス地球ノ外ヲ圈ル線ハ即チ月ノ軌道ナリ

月行テ此ニ至リ其影適サニ地ニ達ス人其影ノ
 掩フ處ニ在テ必ス太陽ノ光線ヲ見ル能ハス唯
 月体地体ヨリ小サク地体又夕太陽ヨリ小ナリ
 故ニ月影必ス地球ノ全体ヲ掩フ能ハス日蝕ノ
 久シキ必ス四分時間ヲ過サル所以ナリ且ツ各
 國ニ於テ日蝕ヲ見ルニ其時ヲ同フセス是レ月
 西ヨリ東ニ運行スルニ由ル又其蝕スル形ヲ同
 フセス故ニ各國ニ於テ全蝕ヲ見ル者アリ半蝕
 ヲ見ルモノアリ小蝕ヲ見ルモノアリ能ク見ユ
 ルモノアリ見ル能ハサルモノアリ皆ナ地ニ就

キ影ニ就テ然ル所以ナリ又中体ノミ暗黒ニシ
 テ其周端光リ輪ノ如キモノアリ是レ月遠ク影
 小ナルニ因テ然リ全蝕半蝕小蝕ノ大小ヲ計ル
 ニハ則チ月ノ行ク交軌ノ遠近ヲ以テ算ス若シ
 月行テ交軌ヲ離ル、十六度ニ至レハ即チ蝕ヲ
 見ハス初蝕ニ遇フ毎ニ必ス西端ヨリ始マル他
 方月影掩ハサルノ處ニアルト雖トモ亦タ必ス
 太陽ノ色微黄ナルヲ見ル其掩ハレ蝕スルノ内
 ニアルトキハ暗黒ナルコト夜ノ如キ者アリ數
 百年前西洋ノ僻郷ニ於テ日蝕ノ甚シク暗黒ニ

シテ深夜ノ如キニ至リ星辰現露シ鳥什シ獸伏
 シタルトキニ昧民是ヲ呼テ大變ノ凶兆ナリト
 セリ然レトモ其國ハ即チ民安ク世泰平ニシテ
 竟ニ其兆ナシ蓋シ日月ノ蝕スル定期アルニ因
 テナリ總テ能ク月ト地球トノ行度ノ遲速又タ
 其二軌道ノ遠近ヲ知リ法ヲ用ヒテ推算スルト
 キハ千百年ト雖トモ皆預メ知ルヘシ現ニ天文
 ノ説ニ據レハ毎歲必ス日ノ蝕スルニ度多キハ
 五度ニ至ル月蝕ハ毎歲二度ヲ過キス大概日ノ
 蝕スル毎歲三度月ノ蝕スル毎歲二度ヲ例トス

其多キ者ヲ論スルモ間一歳日蝕スル五度月蝕
スルニ度アルノミ唯日蝕ハ人恒ニ見ス月蝕ハ
即チ人々共ニ見ルト云フ

地理ノ部

地球表面及ヒ五大洲ノ區別

地球ノ表面ハ水陸ノ二部ニシテ其全キ廣濶サ
三千三百零七万九千四百方里有余トナス是レ
ヲ海陸ノ二部ニ分ツトキハ陸地ノ表面海水ノ
表面ヨリ小ナルコト四分ノ一トナシ又海陸ヲ

比較スルトキハ海水ノ表面陸地ノ表面ヨリ大
ナルコト四分ノ三トナス故ニ海水ノ表面ハ二
千四百八十万九千五百五十方里余ニシテ陸地
ノ表面ハ八百二十六万九千八百五十方里余ト
ナス然レトモ赤道ニ於テ地球ノ表面ヲ南北ノ
半球ニ二分シテ海陸ヲ區別シ見ルトキハ北半
球表面ノ陸部ハ其水部ヨリ小ナル八分ノ三ト
ナシ南半球表面ノ陸部ハ其水部ヨリ小ナルコ
ト八分ノ一トナス蓋シ北半球ニハ亞細亞、歐羅
巴、亞米利加ノ大陸アル故ナリ地球上ノ全陸ヲ

三部ニ大別シテ三大陸ト名ツケ其他ヲ許多ノ
 部分ニ小分シテ**島嶼**ト名ツク而シテ海水ノ廣
 大ニ相連ナルモノヲ**大洋**ト名ツク三大陸ヲ五
 ツニ區別シテ五大洲トナシ亞細亞洲亞非利加
 洲歐羅巴洲南北亞米理加洲**埃太利亞洲**即チ
 レナリ大陸ノ最大ナル者ハ亞細亞洲亞非利加
 洲歐羅巴洲ノ三大洲ニシテ大陸ノ最小ナルモノ
埃太利亞洲ト共ニ東半球ニアリ是レヲ古世界
 ト名ツケ大サノ中ナル者ハ即チ南北亞米理加
 洲ニシテ西半球ニアリ是レヲ新世界ト名ク五

0

大洲ノ幅員ヲ概算スルニ亞細亞洲ハ二百八十
 三万八千五百三十方里歐羅巴洲ハ六十二万九
 千六百八十方里亞非利加洲ハ一百八十七万三
 千方里亞米理加洲ハ二百三十五万六千九百八
 十方里**埃太利亞洲**ハ五十七万一千六百六十方
 里トナス
 陸地ノ周圍海水ヲ繞ラス處ヲ**島嶼**トナシ其大
 小ニ異同アリ小ニシテ其周圍數里ニ過キサル
 者アリ又大ニシテ日本島等ノ如キモノアリ○
 數多ノ小島近ク相接シテ海面ニ布スル恰モ碁

ヲ布クカ如クナルモノヲ群島ト名ツク伊豆ノ東ニアル大島、利島、新島、神集島、三宅島、御藏島、錢島ノ如キ是レナリ○陸地海中ニ突出シ一方大陸ニ連リタルモノニシテ伊太利亞、朝鮮等ノ如キ地ヲ半島トナス○陸地ノ高ク海中ニ突出シタルモノヲ岬又海角トモ云フト名ツク日本九州ノ佐田岬亞非理加洲ノ喜望峯ノ如キ是レナリ○陸地ノニツヲ連合シテ水ヲ二分スル所ノ狭キ地ヲ地峽トナス南北亞米利加ヲ連合スル巴那馬ノ如キ是レナリ○陸地ヲ二分シテ大海ノ二部ヲ

地 球



名 畧



連合スル狭キ海水ヲ**海峡**ト名ツク長州下ノ關
 等はレナリ○海水灣形ヲナシテ陸地ニ入込夕
 ル處ヲ**海灣**ト名ツク印度ノ孟加拉灣等ノ如キ
 ヲ云フ○海灣ノ小ニシテ陸地ニ入込ニ膜ヲナ
 シ船舶ノ碇泊ニ便ナルモノヲ**港**ト名ツク品海
 ノ如キ是レナリ○兩陸ノ間ニアリテ海峡ノ如
 ク大海ノ二部ヲ連合スル狭キ海水ヲ**海峽**ト名
 ツク天然ノモノアリ人工ノモノアリ**歐羅巴洲**
 大陸ト英吉利士國ノ間ノ海ノ如キハ天然ノ海
 峽ナレトモ**亞細亞洲**ト**亞非利加洲**ノ間ニアル

海峽と名づく

七

蘇士ノ如キハ人工ノモノニシテ又掘割ト稱ス
 ○大陸或ハ島嶼ノ地ニシテ海水ニ近キ所ヲ海濱ト名ツク○海濱ノ地ニシテ海水ニ浸サル、所ヲ汀磯ト名ツク大洋ヲ五ツニ區分シテ五大洋トナス南北兩冰洋、大西洋、印度洋、太平洋即チ是ナリ○北冰洋トハ亞細亞洲北亞米理加洲歐羅巴洲ノ北總テ極線ノ以北ニアリ寒氣甚タ凜烈ク海水常ニ氷結スルカ故ニ冰洋ト名ツク然リ此冰洋ニ於ケルヤ海水ノ氷結シテ大ナルコト小島或ハ山ノ如クナルモノ多ク周歲氷ノ解

サル地方ニアリテ動カサルモノアリ偶解ケテ常ニ水面ニ漂流スルモノアリ故ニ尙シ船舶カノ地ニ航海スルモノアリ誤テ此ノコトキ大ヒナル氷ノ間ニ接スルトキハ碎推スルトナリ而シテ此海邊ノ地方ニハ草木ノ稀ナル所多シ然レトモ海水ノ流動ニ縁テ偶亞細亞洲亞米理加洲ノ北部ヨリ大水ヲ浮ヘ來ルコトアルカ故ニ其地ノ人民鼓躁シテ是ヲ拾フト云フ○大西洋ハ南北ノ方兩冰洋ニ跨リ東ノ方ハ歐羅巴洲亞非利加洲ニ際シ西ノ方ハ亞米理加洲ニ際スル

大洋ナリ。○印度洋ハ其形手廣大ナル灣ノ如クニシテ西ノ方ハ亞非利加洲北ノ方ハ亞細亞洲東ノ方ハ澳大利亞洲ニ際シ南ノ方ハ南冰海ニ跨ル太平洋ナリ。○太平洋ハ東半球亞細亞洲澳大利亞洲ヨリ西半球亞米利加洲ノ間ニ跨リ五大洋中ノ最大ナルモノニシテ其表面ハ大概地球全表面三分ノ一部ヲ有スル大洋ナリ此大洋ノ形恰モ廣大ナル灣ノ如ク其最モ北ニアル部分ハ北冰洋ニ際シ而シテ亞細亞洲ト亞米利加洲ト海岸ノ間北ニ近ソクニ隨テ狭ク南ニ距タル

ニ隨テ廣シ。○南冰洋ハ南極ノ周圍ニ在ル冰海ナリ然レトモ冰結シアルコト北冰洋ニ倍スルカ故ニ其處ノ穿鑿未タ北冰洋ノ如キニモ至ラス

海水淺深固質ノ略說

海水ノ淺深ハ各其地勢ニ縁テ異同アリ故ニ若シ人アリテ海水ノ深サ最大ナル者ハ幾許ノ尺丈アル乎ヲ問ヘハ皆答フル能ハス是レ未タ全ク其測量ヲ極メサル故ナリ然レトモ是レヲ概論スルニ總テ大洋ヲ深キモノ、第一トナシ是

レニ次クモノヲ灣トナス又海岸平夷ナルノ處
ハ海水急ニ深カラス海岸海面ニ聳ヘテ高キ處
ハ海水急ニ深シトナス
水ノ濁リナキモノヲ海水トナス而シテ寒帶ニ
至テハ其海水最清澄ニシテ深サ數十丈ト雖ト
モ水面ヨリ其底ヲ見透スコト敢テ難シトセス
又海水ノ質ト他ノ水質トヲ比較シテ是レヲ區
別スルニ海水ハ苦鹹ニシテ中ニ又種々ノ物質
ヲ包含シ通常ノ泉水、河水、池水、湖水トハ其質大
ヒニ異ナリ故ニ又其儘飲料トナシテ用ル能ハ

ス五大洋中ノ海水ニシテ塩氣ヲ含ム最モ大ナ
ルモノヲ大西洋ノ海水トナス而シテ水塩氣ヲ
含ムコト大ヒナルニ隨ヒ寒氣ニ觸レテ氷結ス
ルコト難シ
海水ノ淺深未タ全ク測量ヲ極メサルカ故ニ大
洋中ニ至テハ其底ノ形狀尚詳ニスル能ハス然
レトモ是レヲ想像スルニ陸地ニ於ルカ如ク又
高低凹凸アルヘシ故ニ岩石或ハ島嶼ノ小ニシ
テ海面ヨリ下ニ在テ暗礁ト名ツクルモノアリ
又淡アリ或ハ海底沙ノ高ク盛リテ海面ノ下近

クニ在テ暗砂ト名ツクルモノナリ
海水ノ質有機体ニ適當スルコト推シテ知ルヘ
シ昆布ノ如キハ海中ニ生シテ大ニ繁リ其最大
ナルモノニ於ルヤ一枝ニシテ數百尺ノ長サニ
至リ隨テ幅亦數十尺ノ廣濶サニ至リ海面ノ一
大部ニ蔓延スルモノ多シ是カ爲メ偶船舶ノ通
行ヲ遮ラル、コトアリト云フ其他水母鯨及ヒ
無數ノ魚類生活シテ其至大ヲ極ムルモノ救擧
スルニ暇アラス是レヲ以テ海水ノ有機体ヲ生
育スル力ノ大ナルヲ知ルヘシ

海水ハ常ニ運動シテ須臾モ止マスト雖トモ浪
ノ激シ漪ツハ是レ風ノ水面ヲ吹拂フコトニ由
テ起ルモノナリ故ニ大洋ニ於テ風起ルトキハ
常ニ浪ノ高サ六尺或ハ八尺ニ至ル其烈キニ至
テハ三丈ヨリ四丈ノ高サニ至ルト云フ

海水ノ流動及ヒ潮汐ノ略説

大洋ノ海水常ニ一定ノ方向ニ流動ヲ爲スモノ
アリ又方向ヲ變スルモノアリ一定ノ方向ニ流
動スルモノヲ潮流トナシ兩極ヨリ流レ出ルモ
ノアリ赤道南北兩回歸線ノ間ヨリ流レ出ルモ

ゴルフストーム

ノアリ北極ヨリ流レ出ル海水ハ極メテ寒冷ニ
 シテ南極ヨリ流レ出ル海水亦極メテ寒冷ナリ赤
 道ノ下南北兩回歸線ノ間ヨリ流レ出ル海水ハ
 頗ル温暖ナリ此ノコトキ海水ノ流動ハ地球ノ
 自轉シテ運行スルカ故ニ太陽ニ向背スルニ從
 テ温度ヲ同フセサルニ因リ熱帶ノ海水下兩極
 ノ海水ト寒温相交代スルモノニシテ皆東ヨリ
 西ニ運テ流ル熱帶ノ地ニ於テハ水氣ノ蒸發ス
 ルヲ温帶寒帶ニ比較スルトキハ極メテ大ナリ
 故ニ是缺乏ヲ補ハンカ爲メニ南北ノ兩極ヨリ

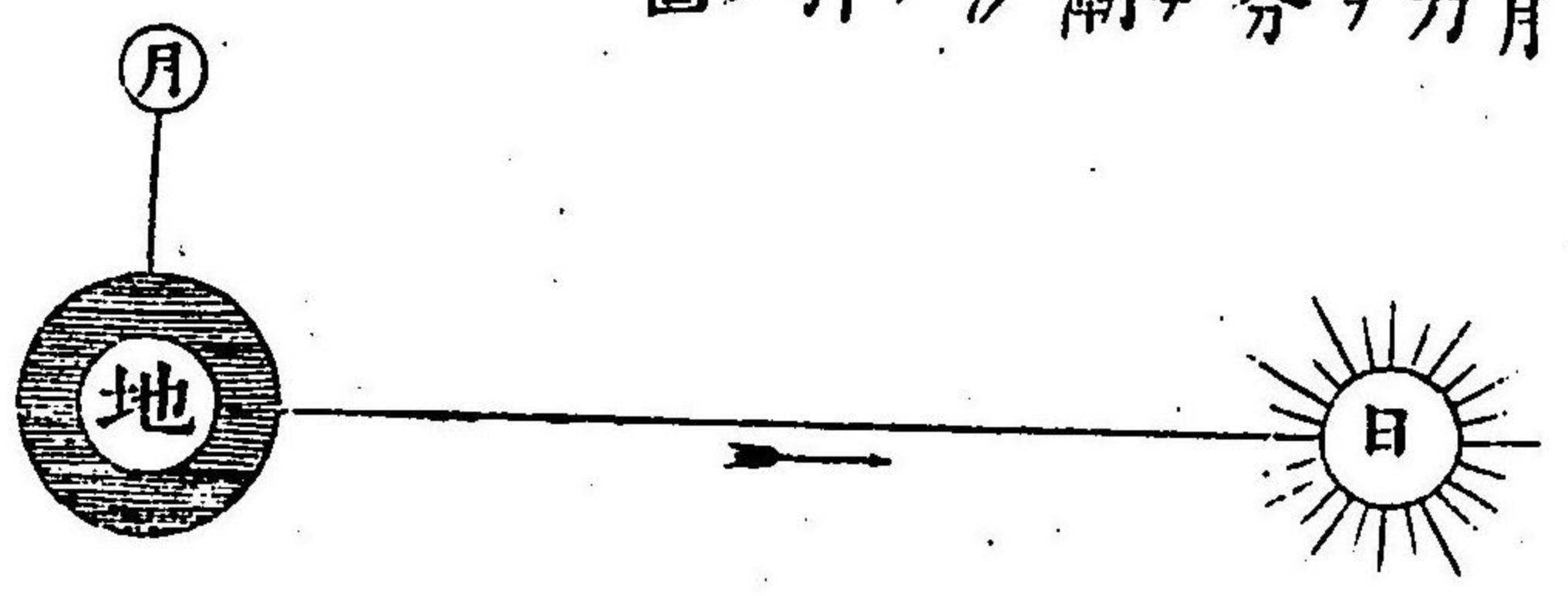
海水流レ出テ熱帶ニ來加ハル然レトモ兩極ヨ
 リ流レ出ル海水ハ赤道下ヨリ流レ出ル海水ヨ
 リ其速力小ナリ蓋シ地球表面自轉ノ速力ハ赤
 道ニ近クニ隨テ大ヒニ兩極ニ近クニ隨テ小ナ
 レハナリ赤道下亞非理加洲ノ西南海岸ヨリ出
 ル海水ハ亞米理加洲ノ海岸ニ向テ流レ北亞米
 理加洲ノ海岸ヲ傳ヘテ「ネウファン」ドランドニ至リ
 其ヨリニツニ分レ一脈ハ折レテ亞非理加洲ノ
 海岸ニ流レ一脈ハ歐羅巴ノ北部ニ至ル太平洋
 赤道下ヨリ流レ出ル海水ハ西シテ支那海ニ至

リ北ニ折レテ又東ニ及リ日本ノ南海岸ヲ過リ
テ其一脉八丈島ノ近傍ニ在リ邦俗是ヲ稱シテ
黒潮トナス同國ノ内ト雖トモ海岸ヲ帶ヒテ赤
道下ヨリ出ル海水ノ流レ過ル近傍ハ殊ニ温ニ
シテ兩極ヨリ出ル海水ノ流レ過ル近傍ハ殊ニ
寒シト云フ蓋シ赤道下ヨリ流レ出ル海水ハ温
暖ニシテ兩極ヨリ流レ出ル海水ハ寒冷ナレハ
ナリ此海水兩ツナカラ大ナルモノハ六七千里
ニ達スルモノアリ然リ此海水流動ノ徵候ハ西
洋ニ於テ以前歐羅巴洲ノ北部アルウエゲンノ

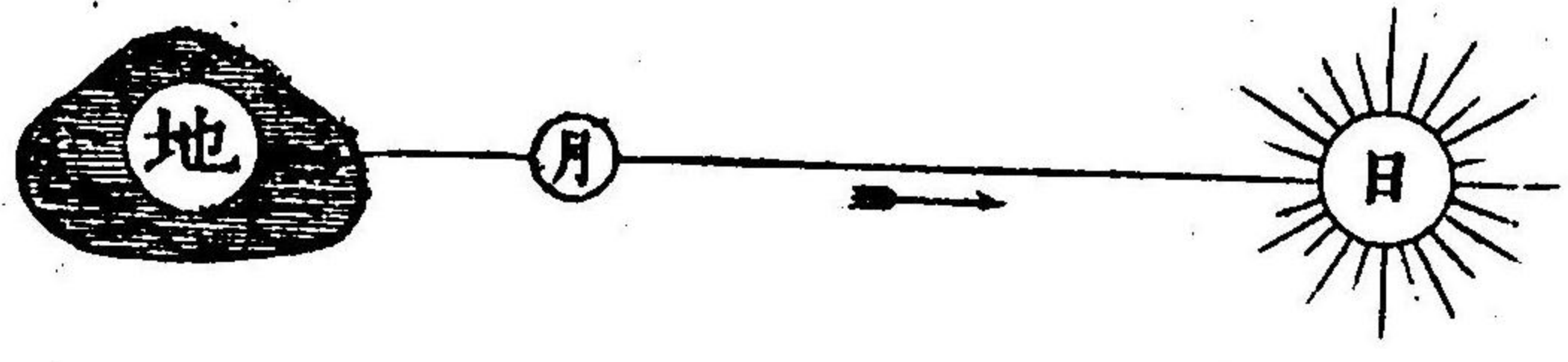
海岸ハ熱帶ニ生スル水ノ流着シタルヲ見出シ
又「アツターレン」ノ海岸ニ於テ此ノ如キ事アリ
是ニ縁テ次第ニ其確證ヲ知り又閻龍モ是ニ縁
テ西方ニ國アルヲ益悟リシト云フ
海水ノ面定期アリテ一晝夜ニ二度高低シ萬古
其盈虚ヲ止マス是ヲ潮汐ト名ツク満ルニ六時
間ヲ以テシ退クニ六時間ヲ以テス而シテ潮汐
ノ高低進ムコト日毎ニ五十分時ヲ以テス其源
因日月ノ引力ニ縁ル夫レ太陽ノ引力ハ月ノ引
力ヨリ勢ヒ大ナリト雖トモ潮汐必ス月ノ顯出

ニ隨テ満ルモノハ月ノ距離大陽ノ距離ヨリ地球ニ近キカ故ナリ力大ヒナリト雖トモ遠クシテ弱ク力小ナリト雖近クシテ強キハ是レ一定ノ理ナリ故ニ月顯出スレハ潮汐高ク満チ月没スレハ潮汐低ク涸ル、時トシテ相引テ行カサルハナク處トシテ同時ニ是ヲ見サルハナシ又日月同シ方向ニアル時ハ共ニカヲ合セ勢ヲ並ヘテ引ク故ニ潮汐ノ高低更ニ著シク常ニ倍ス是レヲ大汛ト名ツク必ス三日ヲ過キテ始メテ定マル新月ノ八日ノ後ト満月ノ八日ノ後ニ

日カ月分チ潮ヲ引ク圖



日月合セ潮ヲ引ク圖



至テ日月カヲ分ツ則チ潮汐ノ満涸前ノ如クナラス蓋シ月ノ引カ十分大陽ノ引カ三分此時却テ三分ノカヲ減スルカ故ナリ一日ニシテ潮汐二回ナルハ即チ水性ハ浮遊物ニシテ地球ノ外ニ週リ流ル、カ故ニ月

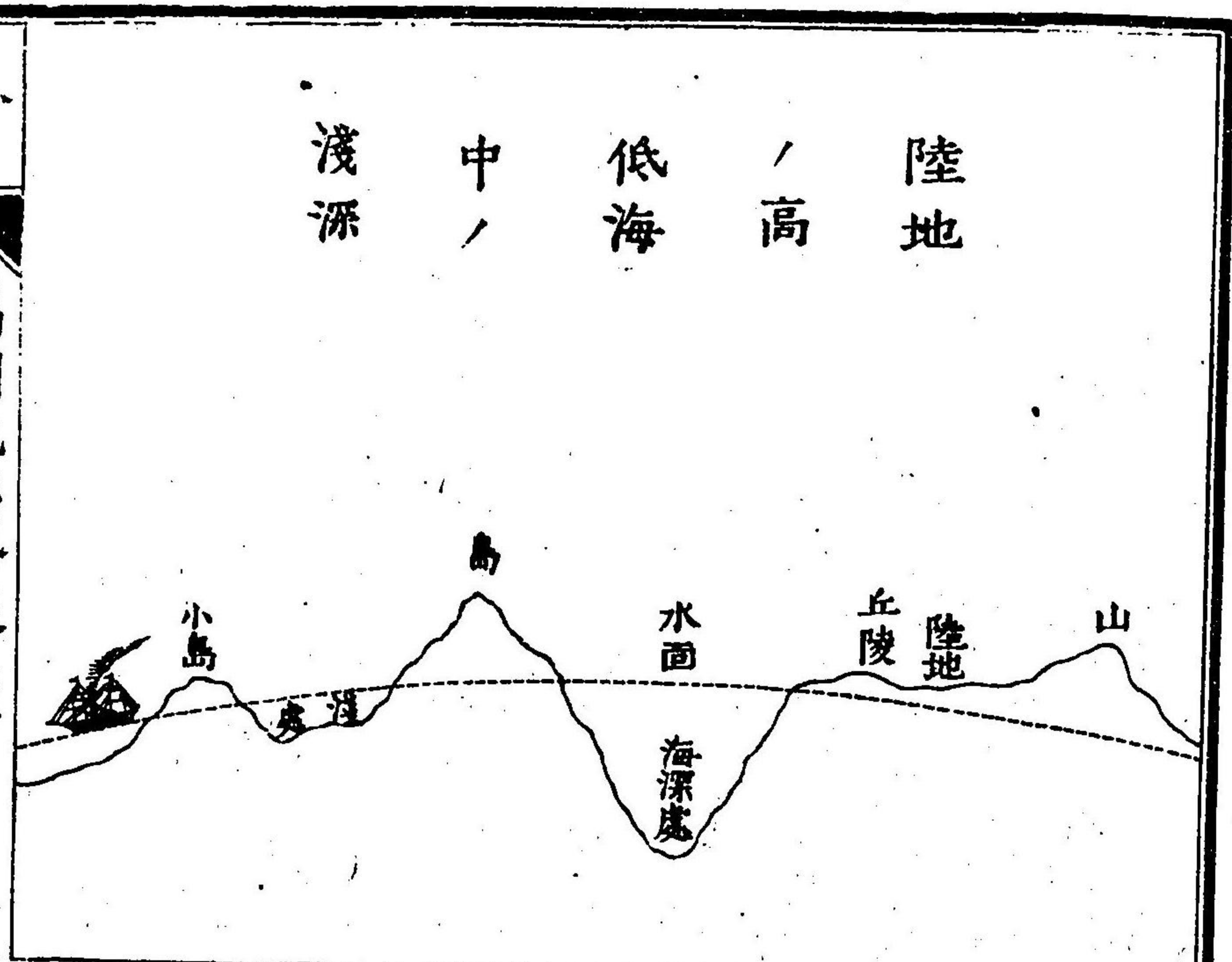
ノ力其一部ヲ引クトキハ勢必ス分レ感シテ其
四方ノ水ヲ動カス是レ數分引動カサレテ前ニ
進ムモノアレバ必ス數分ノ後ニ退キ流ル、モ
ノアリテ地球ノ上下必ス兩ツノ潮水相對シテ
満ルアル所以ナリ若シ地球ニ運轉ナク又日月
ニ引カナクシテ海水ヲ引ク能ハサル時ハ則チ
海水常ニ平カニシテ流レス動カス是レニ隨テ
又潮汐ノ盈虚ナカルヘシ潮汐ノ高ク満ルコト
赤道近傍ハ最大ニシテ兩極ニ距ルニ隨ヒ次第
ニ小ナリトナス然レトモ海岸ノ地勢ニ隨テ潮

汐ノ高ク満ルコト駭クヘシ熱帶中ノ大洋ニ於
テ其満ルコト殆ト三尺ナル時ニ佛國英國ノ海
岸ニ於テハ其高ク満ルコト一丈ヨリ一丈八尺
ニ至リ又「ブリストル」ノ海岬ノ如キハ六丈ヨリ
七丈ノ高ナニ満ルト云フ

地球表面ノ形狀地質地勢
海陸及ヒ山川ノ別

地球ノ表面ハ大概凸凹ニシテ平夷ナル處ハ最
稀ナリ其凸ナル處水面ノ下ニ埋没シテ顯レサ
ルモノアリ水面ノ上ニ突出シテ顯ハル、モノ

アリ其顯ハレサルモノ譬ヘハ暗礁暗沙ノ如キ
 是ナリ其顯ハル、モノハ即チ陸ナリ其凹ナル
 處ニ水充滿ス是ヲ海トス然リ而シテ其凸凹地
 勢ニ隨テ大小ノ異同アルカ爲メニ陸ニハ高低
 海ニハ淺深ノ差アリ故ニ海ノ淺深ヲ測ルニハ
 水面ヨリ其直下ノ底ヲ以テシ陸ノ高低ヲ測ル
 ニハ水面ノ處ヲ最下ト期シテ其ヨリ上ニ至ル
 フ以テス其理ヲ詳カニセント欲セハ設ケル所
 ノ圖ニ由テ推考スヘシ然レトモ此凸凹ヲ地球
 ノ至大ナルニ比較スル片ハ敢テ著シキモノト



爲スニ足ラス
 陸地ノ纔ニ高キモノ
 ヲ丘陵ト名ク大ニ高
 ク聳ユルモノヲ山ト
 名ク而シテ其最上ヲ
 山頂ト名ク其ヨリ僅
 ニ下ル處ヲ峰ト云ヒ
 山ノ中間ヲ山腹又傾
 斜ト云ヒ最下ヲ麓ト
 云フ山ノ多ク一處ニ

在テ疊重スルカ如キヲ**群山**ト稱ス又山ノ多ク
 連續シテ數十余里或ハ數百余里ニ跨ルモノ
 リ是レヲ**山脉**ト稱ス形狀疊ハカ如ク多山複重
 シテ其本大概岩石ヨリ成ルモノヲ**碯**トナス若
 シ山ノ峰高キコト五百丈或ハ六百丈頂上ノ高
 キコト九百丈或ハ千丈ヲ越ユルトキハ是ヲ**高**
山トナス
 世界中最大ナル高山ハ即チ亞細亞洲ノ中央ニ
 於テ印度國ト西藏ノ地ノ間ニ在テ其兩地ノ境
 界ヲナス喜馬拉山及ヒ南亞米理加洲ノ西海岸



ニアル安得山トナス喜馬拉山ノ峰頂ハ天ニ聳
 テ高サ二千八九百丈ニ達シ安得山ノ峰頂ハ高
 サ二千二三三百余丈ニ達ス故ニ喜馬拉山ノ頂上
 ヲ富士山ノ頂上ニ比較スレハ其高キコト殆ト
 一千四百五十丈又安得山ノ頂上ヲ富士山ノ頂
 上ニ比較スレハ其高キコト殆ト九百五十余丈
 トナス其他設クル所ノ圖ノ如ク許多ノ高山ア
 リト雖トモ地球表面ノ至大ニ比較スレハ小細
 ノモノニシテ尚橙袖ノ表面ニ凸凹アルカ如シ
 山間ニ在ル凹ナル所ヲ**谿谷**ト名クルハ一般ハ

通稱ナレトモ谿谷ニ又ニ別アリテ其名ヲ異
 ニス山ノ一定ノ方向ト長ク平行ニ並ヒ通ルモ
 ノアリ是ヲ**縦谷**ト名ク山脉ヲ横ニ斷テ通ルモ
 ノアリ是ヲ**横谷**ト名ク**峠徑**ト名クル道路ハコ
 ノ横谷ノ間ニアルモノヲ云フ頂上ヨリ火烟灰
 泥或ハ燠石ヲ吐ク山アリ遠キヲ隔テ白中ニ望
 メハ唯烟ヲ吐クカ如ク夜中ニ望メハ其光アル
 ヲ見ル是ヲ**噴火山**ト云フ信濃ノ淺間嶽ノ如キ
 是レナリ噴火山ハ大概島或ハ海岸ノ地方ニ多
 シト云フ

高山ノ頂峰ハ雪氷結シテ常ニ消解セス蓋シ空
氣ハ地面ヨリ上高キニ隨ヒ次第ニ寒冷ナルニ
由テ然ル所以ナリ富士山ノ頂上ヲ見テ知ルヘ
シ故ニ赤道下ニ於テモ其高サ一千四百余丈ニ
達スルトキハ已ニ五寒ニシテ冰雪解ケス由テ
各山ノ高低ニ從ヒ常ニ冰雪ニ蔽ハル、ノ場所
各大小ヲ異ニス然レトモ其蔽ハル、ノ場所傾
斜ニ於テ皆一定ノ際アリ是レヲ**雪際**ト名ク漸
次ニ南北ニ距ルニ從ヒ雪際低ク五十度ニ及テ
ハ大概八百丈内外ニアリ極地ノ如キニ至テハ

雪際至低ニシテ平地ニ達シ河海盡ク氷結シテ
萬古冰雪ノ絶ルコトナシ毎歳春ニ至リ山ノ傾
斜ヨリ大雪塊ノ半ハ解ケテ谿谷ニ頽落ルモノ
アリ是レヲ**雪崩**ト名ク偶其響キ雷聲ノ如クナ
ルモノアリ樵夫ノ如キ谿谷或ハ山腹ニアリ不
幸ニシテ此期ニ會シ死スル者多シ○陸地ノ高
低著ルシカラサル所ヲ**平地**トナシ平地纔カニ
高ケレハ是ヲ名ケテ**低地**ト云フ亞細亞洲北部
ノ如キ是レナリ低地ノ甚シキニ至テハ海面ヨ
リ低キモノアリ此ノ如キ地方ニ於テハ海岸ニ

堤ノ設ケテ海水ノ侵入スルヲ防カサル時ハ大ナル水損ノ災アリ和蘭國ノ一部ノ如キ是レナリ○陸地ノ高クシテ水面ヨリ數十丈或ハ數百丈ノ上ニ在ルモノアリ是ヲ名ケテ高原ト云フ亞細亞洲ノ中央喜馬拉山ノ側ニアル西藏ノ地ノ如キハ最大ナル高原ニシテ海面ヨリ一千四百數十有餘丈ノ高サニアルト云フ地ノ面土各所ニ異同アリテ礫确或ハ礫石ヨリ成ルモノアリ或ハ唯沙磧ヨリ成ルモノアリ或ハ沙磧ト粘土等ノ混合シテ成ルモノアリ是ヲ

常土トナシ而シテ耕作ニハ極メテ好キ土質トナス○沙磧潰石礫确ノ混シタル瘠土ヨリ成テ其場所廣ク川澤少ナク雨降ラスシテ周歲潤フコトナキ地ヲ砂漠トナス此ノ如キ地ニ於テハ草木ノ生スルコト稀ニシテ又耕ス能ハス亞非理加洲ノ内地亞細亞洲中央西藏北方ノ地亞刺比亞ノ内地等ニアルモノヲ最大ノ沙漠トナス偶沙漠内ニ川澤アリテ是カ爲メニ潤ヒ纒ニ耕シ得ルノ地アリ然レトモ斯ノ如キハ甚稀ナリ地面ノ下皆一面ノ岩石ニシテ土極メテ微薄爲

メニ樹木ノ根土中ニ埋レ蔽ハル、能ハサルノ所アリ此ノ如キ地ニ於テハ樹木ノ生スル甚タ稀ニシテ唯細小ナル雜草ノミ生ス是ヲ瘠地ト名ク此ノ如キ地ノ廣大ナルモノ亞細亞洲ノ内地歐羅巴洲東南ノ部分ニアリ
 土常ニ水氣ヲ充分ニ包含シ至テ潤澤ナルノ地アリ是ヲ濕地ト名ク此ノ如キ地ハ耕作ニ適ス表面ノ土地植物ノ腐敗シテ土ニ化シタル泥炭ヨリ成ルモノアリ是ヲモールト名ク海邊或ハ川岸ニ於テ其高サ水面ト同ク其色黒ク肥タル土

地アリ此ノ如キ地ニ耕作スルトキハ豐饒スルコト最盛ナリ是レヲマルシラントト名ク
 海水常ニ蒸發シテ須臾モ止マズ其高昇スルモノ即チ雲トナリ風ノ方向ニ隨テ四方ニ飛動シ空氣ノ寒冷ナルニ感シ雨寒氣強ケレハ雪トナリ再ヒ地上ニ降ルコト尚蒸露灌ノ蒸溜水ニ於ケルカ如シ而シテ地中ニ透リ集合シテ遂ニ地上ニ湧出ス是ヲ泉トナス其湧出スル處各地ヲ異ニスルカ故ニ其水種々ノ物質ヲ含ミ其名稱ヲ異ニス礦質ヲ含ムモノヲ礦水ト名ケ食塩質

ヲ含ムモノヲ**塩水**ト名ケ炭酸瓦斯ヲ含ム者ヲ**酸水**ト名ク而ノ此等ノ如キ皆其作用ニ由リテ藥功ヲ奏ス

兩降テ其高處ニ達シ集合スルトキハ必ス流レテ低キ所ニ下ル雪霰モ降り地ノ高キ所ニ達シテ集合シ解ルトキハ又然リ而シテ凹ナル處ニ至リ或ハ妨支サル、處ニ至テ流ル、能ハサルハ其所ニ集合シ或ハ地表面ノ一部ニ漲リ其量ノ増加スルニ隨テ遂ニ大小ノ溜水ヲナス其小ナルモノヲ**池**或ハ**沼**ト名ケ大ナルモノヲ**湖水**

ト名ク而シテ此等平地ニアルアリ或ハ山上ニ在ルアリテ各其所ヲ同フセサルカ故ニ泉ノ如ク礫ヲ含ムモノアリ食塩ヲ含ムモノアリ炭酸瓦斯ヲ含ムモノアリ又種々ノ塩分ヲ含ム者アリ湖水ノ最大ナルモノハ亞細亞洲ノ西部ニアル裏湖トナス其面積ニ万一千八百方里ヲ有シテ其質塩ヲ含ム

數所ノ泉ヨリ流レ出ル所ノ水集合スルトキハ一小脉ノ流ヲ成スカ故ニ是ヲ名ケテ**小川**ト云ヒ數條ノ小江復ヒ流合スルトキハ一大脉ノ流

ヲ成ス是ヲ名ケテ河ト云フ其至大ナルヲ大江ト名ク河流レテ海水ニ達スル所ヲ河口ト云ヒ河ノ両側ニアル地ヲ河岸ト云フ若シ人アリテ河ノ水源或ハ河口ヲ探ラント欲セハ其河岸ニ沿テ上下ニ至ルヘシ他ノ方向ヨリ流出テ大河ノ中ニ注キ入ル河ヲ枝河ト稱ス河流水源ノ地ハ河口ノ地ヨリ高キモノニテ水源ヨリ河口ノ方向ヲ指ストキハ是ヲ下流ト云ヒ反シテ河口ヨリ水源ノ方向ヲ指ス時ハ是ヲ上流ト云フ水ハ元ト浮游物ナルニ因テ河水流ルニ當リ地

ノ高キヲ避テ常ニ低キニ行クノ質ナリ故ニ河ハ必ス殆ト平行ナルモノナシ又底土ヤ、軟カナルノ所ヲ流ル、トキハ纒ノ速カヲ以テ渦ヲ卷テ行ク底土硬ク或ハ岩石ヨリ成ルノ所ヲ流ル、トキハ大ナル速カヲ以テ水角ヲ成シ行ク又河幅廣ク河底軟カナル所ハ水徐々ニ流レ底硬ク加フルニ岩石ノ凹凸多キ所ハ迅速ニ流ル若シ河底ノ地急ニ低キコト大ナルトキハ水勢ヒヲ増シテ流レ下ル此ノ如キモノヲ瀧ト名ク其最大ナル者ヲ北亞米理加洲ニアゴラノ瀧ト

ナス

海ニ於ケルカ如ク人工ニ由テ兩河ノ間ニア
地ヲ掘リ其兩河ノ水ヲ連合シ或ハ河ノ一方ニ
アル地ヲ掘リ其水ヲ海ニ連合スル溝ヲ又名ケ
テ掘割ト云フ

世界大界河

亞細亞洲

支那國ノ揚子江一千三百十余里

黃河一千六十余里

西比利亞國ノ「イ」ビ一千四十里

「レ」ナ九百八十里

滿洲ノ黑龍江九百四十余里

土耳其ノ「ユ」レ「レ」七三百三十里

印度國ノ印度江六百九十余里

「ガ」ン「ク」ス五百九十余里

長短之畧

亞非利加洲

埃土國ノ「エー」一千四百三十里

「スーダン」國ノ「シユゲル」九百里

歐羅巴洲

魯西亞國ノ「グアルガ」九百里

獨逸國ノ「ダニエ」六百六十里余

「ライ」三百十餘里

亞

南亞米利加洲ノ「アマソン」一千五百里

表

米利加洲

北亞米利加洲ノ「ミシシッピ」一千六百四

十餘里

「チエントローレン」八百二十里

萬國地誌略卷之一終

養賢堂藏版

東京書林 山中市兵衛發兌任

